The Article 9 Society Hiroshima
第九条の会ヒロシマ
会報 84 号
2015年1月

名誉代表　岡本三夫　世話人代表　藤井純子
連絡先　〒734-0015　広島市南区宇品御幸1-9-26-413
TEL：070-5052-6580　FAX：082-283-7789（佐々木孝）
E-mail　fujii@jca.apc.org（藤井）　URL：http://9-hiroshima.org/
FB　http://www.facebook.com/9hiroshima
郵便振替　01390-5-53097 第九条の会ヒロシマ　年会費2,000円

映画「標的の村」監督　三上智恵さんが語る

憲法を獲得する沖縄

2015 年 3 月 21 日
（土・祝）17：00 ～ 20：00
広島 YMCA 国際文化ホール
参加費：999 円

17：00 ～　第九条の会ヒロシマ総会 2015
17：30 ～　三上智恵さん講演会

講師：三上智恵さん（みかみ・ちえ）

プロフィール　ジャーナリスト、映画監督／東京生まれ。大学卒業後の 1987 年、毎日放送にアナウンサーとして入社。95 年、琉球朝日放送（QAB）の開局と共に沖縄に移り住む。夕方のローカルワイドニュース「ステーション Q」のメインキャスターを務めながら、「海にすわる～沖縄・辺野古　反基地 600 日の闘い」「1945～島は戦場だった　オキナワ 365 日」「英霊か犬死か～沖縄から問う靖国裁判」など多数の番組を制作。2010 年には、女性放送者懇談会 放送ウーマン賞を受賞。初監督映画「標的の村～国に訴えられた沖縄・高江の住民たち～」は、ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞、キネマ旬報文化映画部門 1 位、山形国際ドキュメンタリー映画祭監督協会賞・市民賞ダブル受賞など 17 の賞を獲得。これまで 300 回を超える自主上映活動が続いている。現在、次回作の準備を進めている。（プロフィール写真／吉崎貴幸さん）マガジン 9 より

第九条の会ヒロシマ 23 周年　2015 総会を前に

安倍首相は「この道しかない」と言うが私たちの願いは「この道ではない」。憲法 98 条には「この憲法は国の最高法規であつて、その条規に反する法律、命令、詔勅及び国務に関するその他の行為の全部又は一部は、その効力を有しない」とある。国会で承認されたものであっても、ましてや国会承認もない集団的自衛権行使容認の閣議決定など憲法９条に反し当然、憲法違反だ。

沖縄では、辺野古新基地建設をするなと県警や海上保安官などの暴力的な強制排除に非暴力抵抗を貫く現場のたたかいが沖縄の民意を押し上げ、菅原文太さんのような素晴らしい発言を引き出し、県知事選、衆院選を勝ち取った。
福島でも、悩み苦しみながら事故に関する東電や国の責任を問う告訴団や子どもたちを放射能から守ろうとするたたかいが続けられ、世界から力強く声がかけられている。

衆院選も議員数では自民党の圧勝にみえるが、得票数で言えば比例票 1760 万票は 6 人に一人の信任に過ぎない。9 条改憲政党も激減した。にもかかわらず選挙が終わるや否や安倍政権は与野党六党に改憲案作りを呼び掛け、明文改憲に本格的に着手した。基地、原発、歴史認識問題と課題は山積だが、憲法を闘い取る沖縄や福島の頑張りに応え、戦争、放射能被害につながる一切を拒否していこう。

新しい年になって安倍政権のこれ以上の暴走を許すわけにはいかないと思う人は多いはずだ。これまでと違う新しい人々の声が聞こえ始めている。8.6 新聞意見広告や広島の街角ナビア映像、街頭行動を通して市民の皆さんに直接訴える取り組みがいよいよ重要になってきた。さぁ　声を行動へ！

三上智恵さんのお話しを聞き、力強い沖縄の人々のたたかいに学び、平和憲法を活かす運動へ大きく広げていきたい。
お誘いあわせの上、どうぞご参加ください。　（藤井純子）

会報84号　目　次

1	第九条の会ヒロシマ総会＆記念講演会 ＆第18回許すな!憲法改悪・市民運動全国交流集会のお知らせ	
2～3	巻頭言　日本は民主主義を捨てるのか?	横原由紀夫
4～5	命を繋いでいくということ	切明千枝子
6～7	米軍再編下の岩国基地をめぐる状況と闘い	田村順玄
8～9	教科書を市民の手に取り戻すとりくみを進めよう	山川　滋
10～11	反原発の歴史に学ぶ　電産中国の闘い	頼　秀文
12～13	原発問題　川内原発再稼動について	髙木恭代
14～16	戦争・被爆体験「記憶の継承」とあるジャーナリスト	吉川徹忍
17	広島から沖縄を考える	藤井純子
18	慰安婦ネットコーナー、サザン熱唱「ピースとハイライト」	
19	活動報告	
20	お知らせ　お願いと後記	

第 18 回許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会公開集会
2 月 14 日（土）13：30 ～ 16：00
名古屋学院大学白鳥学舎曙館 103 教室
講　演　清水雅彦さん（日本体育大学教授）
日本を「戦争する国」にしてよいのか
＝戦争する国への道：ガイドライン改定と戦争法案
特別報告　内田雅敏弁護士　「戦争する国と靖国神社問題」
資料代　500 円
共　催　上記実行委員会
名古屋学院大学平和学研究会
連絡先　東京都千代田区三崎町 2-21-6-301　市民ネット気付
電　話　03-3221-4668　or　052-731-7517

日本は民主主義を捨てるのか？
―劣化する日本の政治・社会―

横原由紀夫（第九条の会ヒロシマ世話人）

■　衆院選の結果が意味するもの

12 月 14 日投票の衆院選は、マスコミの予想通り“自公連立与党”が大勝した。公明党が 4 議席伸ばして連立与党で 326 議席獲得し三分の二を維持。躍進と言われるのは8議席増で21議席となった共産党である。投票率の低い選挙では「組織」がしっかりしている政党が勝つのは当然だが、これで政治が大きく変わることは難しい。

大きな問題は、「戦後最低の投票率更新」（52.66%）という事態である。有権者の約半数が投票しない選挙の意味である。都道府県別で見ると８県で４０％台となっている（８県の内、宮城の１議席を除くと自民と自民系無所属が小選挙区の議席を独占）。

自民党は小選挙区で定数の四分の三にあたる 222 議席を得ているが、小選挙区全体の全有権者に対する絶対得票率は約 24%である（朝日新聞社説・12 月 17 日参考）。

「投票しても何も変わらない。政治が良くならない」、「将来のことは考えない」などの声が 20 代に多いと報じられている。「選挙があることを知らなかった」という大学生がいたと言うから、驚きである（毎日新聞 12 月 8 日付け東京夕刊）。

“民主党に期待していたが、裏切られた。もう投票しない”との声も多く、結局、“自民党の方がよさそう”と投票した人が多いようだ（消極的選択）。魅力ある政党・政治家が激減し、政党・政治家に対する不信感が強い。

根本的な問題は、「『死票』の多い小選挙区比例代表並立制」という選挙制度にあり、民意をくみ上げることにならない（改革が急がれる）。このような事態が続けば、「日本は民主主義社会ではない」と断ぜざるを得ない。国民そのものが民主主義を理解していないことになる。

選挙で「目先の景気」しか考えない人が増えている。「将来の日本をどうするか」という政治の果たす根本的な役割を考えない国民が増えれば、もはや選挙（代議制民主主義）の意味はない。政治家も国民もマスメディアも真剣に考えなければならない。

■　改憲へ走る安倍首相

安倍首相は衆院選の結果を受け、「政権公約に盛り込んだ“改憲や原発再稼働の推進”も支持を得た」と表明し、「集団的自衛権行使容認の閣議決定（憲法解釈の変更）」も支持を得たと胸を張る。だが、投票日前に行われた世論調査（毎日新聞）では、『特定秘密保護法、集団的自衛権行使、原発再稼働』について反対が多いのである。しかし、選挙戦では景気（経済）以外は大きな焦点にならず、候補者も（安倍を筆頭に）語ることなく口を濁していた。

自民党に投票した人たちでさえ“首相に白紙委任”したのではない（毎日新聞等の報道記事参照）との声が多い。

特筆すべきは労働組合の動きである。連合は民主党支持だが、電力総連は、「原発再稼働に理解を示す候補」を当選させることに必死であった（毎日新聞 12 月 12 日東京夕刊）。再稼働反対を掲げる候補は「敵」だ、と語る組合員さえいる。

「民主 18 人、原発推進協定・東海の候補者中部電労組と結ぶ」との見出しが、東京新聞全国ニュースにあった。「核燃料サイクル推進」と「原子力の平和利用」を明記した政策協定を結んでいたのだ。

労働組合は、本来、「社会的存在」である。だが、「自分達の利益しか考えない。他者・弱者は眼中にない」のであり、企業の代弁者となっている。

政治家は、「選挙で勝てば何でもできる」と考えている。「日本社会を改善する。国の行く先をどうするのか。国民の生活を改善する」という政治本来の目的・役割を放棄している（政治家の劣化、労働組合の労使協調・癒着であり、哲学なき時代）。

安倍首相は“勝てば官軍”と持論の実現に走ることは必至である。憲法「改正」は自民党発足以来の党是であり、とりわけ安倍は強い意欲を持っている。

2016 年 7 月の参院選で自公が三分の二を獲得すれば、憲法改正発議が可能となる（公明党の罪は大きい）。また、今回の選挙で「絶対安定多数」の議席をはるかに上回ったから、「強引な国会運営」も可能であり国会議員は軽視される。

■　安倍政治の向かう先―日本社会の破壊

安倍政治の行く先は、（１）改憲：国民主権から国家主権へ、（２）大企業中心の政治：日本社会は格差拡大・貧困国家へ、（３）防衛力強化：軍事優先、軍産複合体の巨大化、（４）原発依存体制復活で企業の権力は強くなる。

既に、改憲の下地は出来ている。「特定秘密保護法施行」、「国家安全保障会議設置」、「集団的自衛権行使：自衛隊法など関連法の整備、日米防衛協力指針の大幅見直し」によって安保・防衛政策の基本が固まり、次に目指すは『国家安全保障基本法制定』と『自民党改憲草案に基づく憲法改定』である（対米従属が強まり、中国との緊張関係が強まり、軍拡競争激化へ）。

註：防衛予算、3 年連続増へ来年度 5 兆円規模（2014 年 12 月 11 日付け朝日新聞記事より）。

アベノミクスによる「円安」と例外なき規制緩和が急激に行われ、結果として「中間層は破壊」される（米国では既に起きている）。社会的格差は拡大し貧困化が進む（政府の方針は、庶民は自助努力せよ）。国内総生産を支えてきたのは「多数派である中間層の消費支出」であるが中間層が破壊されれば望むべくもない。企業減税など大企業中心の政策により「国家財政の再建」は、消費税を 20%にしても不可能となる。ＴＰＰで米国資本を引き入れると

日本社会はグローバル資本の食い物である。米国に従属する国は米国と同様に貧困国とならざるを得ない宿命である。

根本的な解決策は、“安倍政治を終焉させる”しかない。中間層を回復させるには『非正規社員の労働条件向上・同一労働同一賃金の徹底、社員化、中小企業の優遇政策徹底』を実行するしかない（労働組合は企業別組合の壁を超え社会的役割を果たせるか、問われる）。

現憲法を基盤とした「安保・外交」政策を基本として積極的平和主義の推進である（国際社会から信頼される道）。

先進資本主義国は限界を迎えている。成長を追い求める経済のあり方は、『環境制約と資源制約』の壁に阻まれる（超えようとすれば戦争となる）。倫理観と哲学なき資本主義（博打資本主義・金融資本主義）は格差を拡大し差別を助長するだけである。拝金主義は社会を荒廃。

“こんな低投票率でいいの”と提起する高校生の投稿があった。“ぼくたちに投票権をくれ”という中学生の声もあった。今の大人に自分達の未来を決めて欲しくない、との意思表示だ（朝日新聞声の欄より）。大人に「民主主義を取り戻せ」と要求しているのだ。

■　被爆 70 年、敗戦 70 年の自覚を

2015 年、広島・長崎原爆惨禍から 70 年、敗戦から 70 年である。

被爆 70 年ということで国際会議も相次いで開催される。8 月には広島で「国連軍縮会議」が開催される。包括的核実験禁止条約関連の「賢人会議」も計画されている。

5 月にはＮＹで「ＮＰＴ再検討会議」が開催される。10 月には、市民の実行委員会による「世界核被害者フォーラム」が広島で開催される。だが、この間、多くの要人が広島を訪れ被爆者の証言を聞き“誓いを新たにする”が、核兵器廃絶への道は未だ見えない。毎年 8 月「平和宣言」を発するが、70 年の節目だからと声高にスローガンを叫ぶだけでは「抑止力」という国際政治の現実を崩すことは出来ない（予定は中国新聞の記事を参照・12 月 21 日付け）。

2014 年 5 月 21 日に出された「福井地裁大飯原発 3，4 号機差止め訴訟判決」を、広島市民が共有できるかどうかが問われている。「国民の生存を基盤とする『人格権』は、国民を戦争の危険から守る・放射能の危険から守る」という生存するための原理である。

“核兵器と原子力発電は人類生存の基盤を破壊する”ものとして「核と人類は共存できない」と核絶対否定の理念が、40 年前広島から発せられた。広島市民が再確認し自らが可能な方法で行動するかが問われている。

核兵器と米軍基地に国民の安全・平和をまかせ（沖縄に押し付け）、原子力発電に電気エネルギー生産と経済をゆだねるという考え方を、「広島・長崎、ビキニ、3・11 フクシマ」を経験した日本が許してよいものか、問われている。

被爆 70 年、敗戦 70 年は、広島市民のあり方が問われ、政治に騙され続けるあり方が問われている。被爆 70 年・敗戦 70 年の意味を自問自答しなければならない。

■　市民が決起しなければ何も変わらない

政治に期待するのではなく、政治を動かす行動が求められる被爆 70 年・敗戦 70 年である。

アベノミクスがやっていることは「日銀が印刷機をフル回転させて『円』を増刷し円安を進め、株を買って『株高』を演出」しているにすぎない。その結果（円安、消費増税）、庶民と中小企業は苦しんでいる。にも関わらず“安倍政治”を支持するのは、見かけの景気に騙されているのだ（騙すのは悪いことだが、政治家と詐欺師は常にウソをついて騙す。騙される側の責任を自覚しなければ社会は改革されない）。

安倍政治を止め“庶民本位”の政治に転換しなければ、そのツケは私たちを直撃する。国民が税金の使い方を監視しなければ、そのツケは「国民負担」として返ってくる。

原発、米軍基地、軍拡競争などは無駄な税金を使っている（だからこそ継続できる）。原発、米軍基地、防衛費増強などに依存すればするほど国民負担は増加し社会保障費は減らされる。

集団的自衛権行使を決めれば、米国が“イスラム国”と戦いを始めた際に「日本も参戦」を求められる。その場合、明確に断ることが出来るだろうか―断れない（憲法解釈を変えたのだから）。何らかの形で自衛隊が参加することになるが、そうなれば日本もテロ対象国となる。

政治を動かす力は市民の決起しかない。特定秘密保護法、集団的自衛権行使、原発依存体制、改憲に反対の声を上げ続け行動することでしか止めることは出来ない。

デモ・集会に参加するだけでなく、周辺の人たちと社会問題について話し合える関係を作れるかが問われている。

「自分で考え、民主主義を取り戻すために行動する」ことが、子どもたちに求められていることを忘れてはならない。

市民が決起して政治を動かす 2015 年としたい。

（2014 年 12 月 26 日記　第九条の会ヒロシマ世話人）

註：東北アジア情報センター会報 33 号・12 月 1 日号の拙論「安倍政治は日本社会を破壊する」を参考にして頂ければ幸いである。

生命を繋いでゆくということ

切明千枝子（被爆者）

2015 年の元旦、わが家には５人の孫が全員集合してくれた。私には一男一女の子どもと息子に２人、娘に３人の孫がいる。

平素、孫達は社会人として多忙だったり、東京へ遊学中だったりで、全員が集うことは殆どないが、お正月だけは全員の顔が揃う。

５人の孫それぞれの個性的な顔を見ていると、この子たちが今、この世に生まれてきてくれた幸せは、ある一人の老医師のお陰であったことをしみじみと思い出す。

私は、子や孫に折にふれては、私自身の戦争中の体験や原爆に被災した時のことを語り続けてきた。つらい思い出ではあるが、再びこのようなことがあってはならぬという、切なる願いからのことである。

1945 年８月６日、私は爆心地から２キロメートルの地点で原爆に遭い九死に一生を得た。当時、旧制高等女学校の四年生で15歳。学徒動員で御幸橋のたもとのたばこ工場で働いていた。

たばこ工場に通年動員（１年を通しての動員）が決まったのは 1945 年４月のことで、それまでは、軍都廣島を支えていた陸軍三廠（兵器廠、被服廠、糧秣廠）へ散発的に動員されていた。

太平洋戦争も末期になると、三廠へ行っても、まともな仕事は無くなっていた。兵器を製造したり軍服を新しく縫ったりする材料が欠乏していたのだ。

兵器廠では、中古品の三八式歩兵銃の錆落とし、被服廠では、兵士の着古した軍服の洗濯と補綴。糧秣廠では軍隊用の缶詰の最終仕上げ（錆止剤を塗り高圧の熱湯で滅菌した缶詰を布切れで拭きあげる）が主な仕事だった。

兵器廠での作業中、三八式の意味を知って愕然とした。明治三十八年に制定された銃だというのだ。私にとっては遠い遠い昔の日露戦争の時に制定されたとのこと。今考えるとアメリカが原爆を作っている時に、私は三八式の銃を磨いていたのだ。

当時は軍国少女の私だったが、少し心配になって、付添いの先生に「こんなことで日本は勝てるんでしょうか」と聞いたら「バカ！そんなこと言うんじゃない。憲兵に知られたら学徒といえども容赦なく引っぱられるぞ（検挙されること）。日本は神国だ。きっと勝つ」と、こっぴどく叱られた。思ったことを言うことも許されない時代であった。

軍服の古着は汗と脂にまみれ、時に銃弾の貫通したらしい焦げ穴があり血が滲んでいたりしたが、私は「これで日本は勝てるのか」などどは二度と口に出すことはなかった。

缶詰工場では、錆止剤によって全身に蕁麻疹が出たり、手がかぶれたりした級友が沢山いた。私も二の腕まで真っ赤になって痛くて痒くて困った。

たばこ工場で働くことが決まった時、級友の一人が「たばこなんて戦争の役には立たない。兵器を作る所に行かせてください」と先生に訴えた。先生は「戦い疲れた兵隊さんが一服のたばこで又元気になって次の戦をがんばれる。心をこめて作れ」とおっしゃる。そうかと納得して、たばこの粉にまみれながら作業にはげむ日々だった。

そうして、８月６日を迎える。

その時、私は、たまたま所用があって、たばこ工場の門を出て比治山橋の東詰にいた。橋を渡る寸前に、太陽が目の前に落ちてきたかのような閃光に目がくらみ、あっと思った瞬間に爆風で地面に叩きつけられ気を失った。暫くして気が付いたら、体に重いものがのしかかり身動きができない。傍の木造倉庫が倒壊してその下敷になったのだ。必死で外に這い出たが外は真っ暗闇。茫然としていると、やがて夜が明けるように明るくなり、あたりが見えるようになって驚いた。今歩いてきた道の両側の家々が崩れ、渡ろうとしていた橋の対岸は火の海。大勢の人が橋の上を悲鳴をあげながら、私のいる方へ逃げてくる。その人々の衣服はぼうぼう燃えており、中には熱さに耐えかねてか、橋の欄干を乗り越えて川へ飛び込む人もいる。

広島の街は一瞬にして焦熱地獄と化していた。

フラフラになりながら、工場へ引き返したが、既に級友や先生達はどこかへ避難した後。

たった一人工場の中で怪我をして逃げ遅れた級友と出会い、彼女をつれて宇品にあった在学中の学校へ辿りつく。校舎はメチャメチャに壊れていたが焼けてはいなかったので、ほっとした。

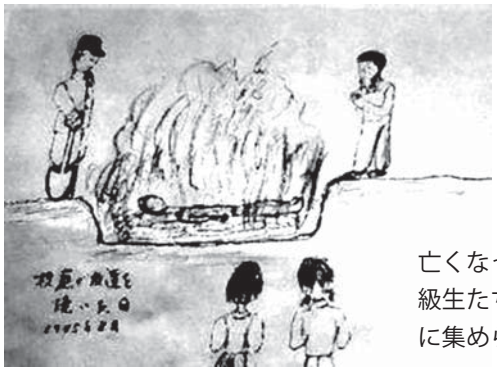
暫くすると雑魚場町（現国泰寺町）の建物疎開作業に動員されていた下級生たちが、一人また一人と戻ってくる。全員が、ひどい全身火傷。服は焼け失せて裸同然、頭髪はチリチリに焼け焦げ、手足の皮膚ははがれてぶら下がっている。誰が誰か見わけもつかぬ面変わり。医師もいない薬もない。家庭科室の使い古しの食用油を塗ってあげるのが精一杯の看護。

私も頭にガラスの小さな破片がいっぱい刺さるという傷を負っていたが、そんなのは、怪我の中にも入らない。

やがて次々に下級生たちは生命果ててゆく。

戦争には何の関係もない可憐な少女たちが苦しみもがきながら死んでゆくのである。

真夏のことゆえ遺体を放置はできない。学校農園の片隅で先生の指示のもと、私はこの手で下級生たちを焼いたのだ。
むごいことであった。（合掌）



亡くなった下級生や同級生たちの遺体は校庭に集められて焼かれた。

八月十五日戦争は終った。九月の中旬、私は高熱を発し、頭髪がバサリと抜け、血便がでる、紫斑が現われる―今考えると急性の放射能傷害だったのだろう―　で、同じ症状で亡くなる人を何人も知っていたので、いよいよ私の番だなと死を覚悟した。が、母の必死の看護でいのちをとりとめた。

その後、高女を卒業し、女子専門学校へ進む。体調は良くはなかったが、戦争の恐怖と桎梏から解放された喜びは大きかった。
新憲法が公布・施行された時は、これでもう二度と戦争に巻き込まれることもないのだと心の底からうれしかった。
戦争放棄をうたいあげた九条は宝物だった。その宝物を得るには、余りにも多くの尊い生命（いのち）を失ったけれど。

その頃、高等師範学校の学生だった夫と知り合い、卒業後結婚に至るが、夫も爆心地から１．５キロメートルの地で被爆していることを知った。
丁度、原爆放射能の恐ろしさが次第に明らかになりつつあった時でもあり、身の回りには、原爆小頭症のお子さんを育てておられる方もあったし、流産・死産の悲しい話もいっぱいあったので、私たち夫婦は将来、子どもは持たないことにしようと約束をした。

結婚後７年近く経った頃、近所の内科医院の K とおっしゃる老先生が、「あんたら、どうして子どもをつくらんのか？　それともできないのか？」と単刀直入に尋ねられた。夫は、「我々二人とも、原爆の生き残りで、放射能の影響で障害を持つ子が生まれるのが怖くて」と答えた。先生はちょっと顔色を変えられて「あんたら、そりゃあ間違っとるぞ。障害を持つ子が生まれるのを恐れるということは、あんたらに障害児に対する差別心があるからじゃあないのか？　だから生むのが怖いんじゃろう。例えどんな障害を持つ子が生まれようと、わが子はわが子。それを慈しんで育てるのが、生命（いのち）を繋（つな）ぐということじゃろう」とおっしゃったのである。
はっと思った。目から鱗が落ちるとはこのことかと思った。障害を持つ子を生むのが怖いというのは、障害者への差別心があるからとの K 先生の指摘には返す言葉がなかった。
私たち夫婦の間で交した生涯子を持たないという約束は先生の一言で反故になった。

今、私は子や孫に話す。「K 先生の一言がなかったら、あんたたち生まれとらんのよ」と。
夫が其の後、教育問題、わけても人権教育・同和教育・障害児教育・平和教育に強い関心を持ち、遂には多くの方々のお力添えを得て、私をも巻き込んで小さな出版社を立ちあげ、それらに関する本の出版を生涯の仕事として、先年その一生を終えたのも、正に K 先生の一言があったからだと私は思っている。

３・１１の東日本大震災で福島の原発が大事故を起こした。放射能を撒き散らすという意味では、原爆も原発も同じだったのだと、私たちは漸く気がついた。

福島のお母さんたちの心配は痛いほどよくわかる。でも、負けないで欲しいし、決してあきらめないで欲しい。声をあげて政府や東京電力、その他原発安全神話を信じこませた人々に責任を取ってもらおう。黙っていては駄目。
私は福島の子ども達を全員どこか安全なところへ避難させたいとまで思っている。なぜなら、福島原発は、あれからもう間もなく丸４年が来るというのに、未だに収束せず、放射能を含んだ空気、汚染水を出し続けているのだから。
私は今も甲状腺を患い、死ぬまで薬を飲み続けなければいけない身だが、「あなたが、被爆時にもう少し年をとっていたら、甲状腺を病むこともなかった。まだ育ちよったからなあ」と医師に言われたことを忘れない。
子供は傷つきやすく弱い存在なのだ。

経済最優先の今の世の中の行きつく先が恐ろしい。一刻も早く生命最優先の世の中に切りかえないと大変なことになると思う。原発再稼働したい人、戦争をしたい人がみちみちている今の日本。あの大震災による原発事故や先の大戦に、何も学ばなかった人々への怒りがこみあげてくる。
私は、５人の孫を含めて、すべての子供たちを戦場へ送ることなく、放射能を浴びることのないようにと、心の底から願っている。

K 先生に、此の先、生命（いのち）が脈々と繋（つな）がれてゆくように泉下から応援してくださいと祈り、お願いをしている私である。

米軍再編下の岩国基地をめぐる状況と闘い
新施設建設が着々と進行し一大軍事拠点作りが進行するイワクニ基地のいま

田村順玄（岩国市議　リムピース共同代表）

拡大・強化される岩国基地

岩国版「安保の丘」から基地を臨めば、空気の澄んだ日は呉の海岸線まで見ることが出来る。その、前面に広がる岩国基地。滑走路移事業で大きく広くなった基地施設は、正面に真新しいＫＣ１３０空中給油機の格納庫が見える。年末のある日、格納庫前の駐機場には、この日は数えると１１機のＫＣ１３０空中給油機を確認することができた。２０１４年８月、普天間基地の全面返還が一歩も前進しないまま１５機のＫＣ１３０か岩国基地に先行移駐された。その空中給油機部隊の姿である。山口県岩国市、その顔は米海兵隊岩国基地の存在だ。４０年前から岩国市民に「悲願」とまで言わしめた基地移設事業で、岩国基地は大きく変わった。その面積は１ .４倍に広がり、水深１３メートルの巨大岸壁を併設した新滑走路が完成し、いまその広大な新基地に新たな施設建設が大工事ラッシュとなって進行している。

その新たに建設された新滑走路の周辺には、整然と、岩国基地の海兵隊部隊・海上自衛隊の航空機部隊・沖縄／普天間から移転した空中給油機部隊に加え、厚木から２０１７年に移転を予定している原子力空母艦載機部隊の関連施設が定められた各エリアで建設が進行している。格納庫や飛行機を整備する施設などは、それぞれの部隊がこれから岩国基地を拠点に作戦を展開するために２１世紀の最新鋭の機能を具備し、海兵隊と海上自衛隊の要塞化と変化している現場である。それらの施設は大部分が日本側の思いやり予算で建設され、たとえば２０１４年度だけで９０３億円という巨額の税金がその現場に投入されている。すべてが艦載機の岩国への移駐の期限である、２０１７年の完成目指して大工事ラッシュが続いているのだ。

ＫＣ１３０空中給油機は、今から１８年前、日米政府の合意で普天間基地の全面返還と引き換えに岩国が移転受け入れを合意し今日に至っていた。しかし普天間基地の全面返還は空中給油機の岩国移転と共にヘリコプター部隊の移転も条件であり、その代替施設建設はこれまで迷走してきた。日本政府が負担をし、８千人の海兵隊部隊をグアムへ移転させると共に、このヘリコプター部隊は一時は辺野古の沖の海上基地に移転させる案が１０年以上足踏みし結局振出に戻った。そして今日の大迷走となった辺野古新基地建設へと押しつけの埋め立て案が沖縄県民の怒りを燃え上がらせた。

Ｆ３５Ｂステルス戦闘機

年末の沖縄県知事選挙や総選挙での沖縄県自民党全員敗北という結果は、正に日米政府の全く現実を読み取らない無策の中で進行した大愚作で、そのツケが民意の総結集として表現された結果であった。こうした背景が有りながらも、一方の空中給油機だけはさっさと「先行移駐」という形で岩国基地にまず配備された。米軍の空中給油機を岩国基地に配備する意味は大きく、これまでの同機が普天間で果たしてきた軍事的価値をはるかに上回る効果がこれから岩国基地を新拠点として展開を始めることは間違いない。

空中給油機・空母艦載機・ステルス戦闘機の岩国移駐

２０１２年１０月、日米の外務・防衛トップが確認した米軍再編の見直しは、これからの岩国基地の使われ方を表現した決定的なものであった。それは大意、①普天間基地からＫＣ１３０空中給油機を岩国基地に移駐させる。②今、岩国にある海上自衛隊部隊を今後も岩国基地が維持し続ける。③厚木基地から空母艦載機を２０１７年度頃までに岩国基地に移転させる。④米国以外初となるＦ３５Ｂステルス戦闘機を２０１７年、岩国基地への配備を開始する。…という内容であった。

昨年１１月上旬米軍は「２０１５米海兵隊航空計画」を公表した。米海兵隊航空計画は２０１２年まで毎年、センセーショナルな内容を公表しこの計画書に沿って米海兵隊の動きはほぼこれを追認する形で進められてきた。早くからこの計画書で公表された「オスプレイ」の配備も、日本政府は一貫してその策略を公言せず、一方、現実には３年前からこの計画書の通り、普天間基地に２年続けて岩国基地を経由しオスプレイが持ち込まれた。このたびこうした経過の中でその「２０１５海兵隊航空計画」が３年ぶりに公表された事実は重く、新たな岩国基地の役割りがまた見えてきた。

今回の「２０１５海兵隊航空計画」によれば、まさにその「Ｆ３５Ｂステルス戦闘機」が２０１７年から１６機岩国基地に配備されるという表現があった。「Ｆ３５Ｂステルス戦闘機」は岩国基地にいるＦＡ１８ホーネット戦闘攻撃機や垂直離着陸機ハリアーの後継機として、米軍が未だ開発中の新鋭機である。米軍はこれまで、アメリカ以外で「Ｆ３５Ｂステルス戦闘機」を実践配備しておらず、多くの不安なリスクを持った航空機である。オスプレイと同じく、またこの岩国でこの飛行機を運用する米軍の思惑が不安である。沖縄で進行している辺野古新基地建設のヘリコプター用の新滑走路が出来、大岸壁が出来れば強襲揚陸艦も接岸する。そしてハリアーと同様にこの「Ｆ３５Ｂステルス戦闘機」も併せ新滑走路を使用し、同機の垂直離着陸機能を使い運用が可能となる。つまり、岩国基地と沖縄の基地の一体化が今以上に濃

密となる新たな要素の体現化だ。

加えて、岩国基地を使用したオスプレイの動きも見逃せない。オスプレイは普天間基地に配備されて以来、全国各地で訓練と称した飛行訓練を続けているが、その場所への往復では殆ど必ず岩国基地を経由し、岩国基地の機能が中継基地として使用されている。これからはさらに、普天間基地の返還延期や県民感情を薄める策として、或いはオスプレイの何機かを恒常的に岩国基地に配備するという日米政府の思惑が浮上してくることも十分予測出来、警戒は緩められない。

愛宕山の米軍住宅建設

岩国基地をめぐるもう一つの大きな動きは、「愛宕山の米軍住宅建設」という問題である。これも岩国基地の滑走路移設事業と大きな関わりを持つ、市民を騙した一大ペテン事業である。愛宕山は基地から南側に約５キロメートル離れ、周囲は新興住宅団地が張りついた丘陵地帯の真ん中にある。筆者もその団地に居を構え３０年余り経つが、標高１２０メートル余の愛宕山からベルトコンベヤーを走らせ、岩国基地移設事業の埋め立て工事にこの山の土砂が活用された。約２千万立方メートルの土砂が２１３ヘクタールの基地沖を埋め立て、岩国基地の新滑走路が出来た。事業主体の山口県と岩国市はその土砂採取跡地へ２１世紀の理想の住宅地などを建設し未来の街づくりを推進すると市民に提案した。

基地の埋め立て工事だけは順調に進行したが、跡地の理想の街づくりはバブルの破綻や景気の低迷で計画通り進められず、行政はあっさりと計画の見直しを宣言し事業は中止されてしまった。土砂を防衛省に売却し、収入とした金額だけでは山を切り開いた経費の回収は出来ず、その後で約２５０億円の借金だけが残ってしまった。

その借金解消を名目に打ち上げた県・市の新たな策略が「愛宕山開発跡地の米軍住宅施設への転用」であった。結局、開発して荒れ地に変わった開発地の４分の３である約７０ヘクタールが防衛省のお買い上げとなり、跡地は米軍住宅用地として再開発が始まった。愛宕山土砂採取現場は元々岩山で、住宅地開発は大変なリスクを伴ったが、当初から土砂採取を受け持った山口県住宅供給公社は連日ダイナマイトを使用して山から土砂を岩国基地の埋め立て現場へ送り込んだ。

しかも開発して平坦になった用地の周辺は幅５０メートルの緑地を残し、自然を生かした環境良好の宅地として、大変高いコストで敢えて岩盤を破砕して用地造成に精を出した。出来上がったその宅地を一目見れば、米軍に提供するセキュリテイ十分の高級住宅地がここに出現したが、この事業は今思い返せば正に市民を最初から欺いた完全犯罪の如き米軍住宅建設の事業であった。防衛省はこの土地を当初から自分たちで買収するという反対リスクを回避したうえで、チャッカリと完成品となった用地に入り込んで上前をはねる手の混んだ策であった。

その上、防衛省の仕組んだ市民への懐柔策はその買収した用地の一角を日本人へのスポーツ施設建設という新たなアメをばらまき、反対運動を封殺したのだ。この愛宕山開発地の米軍住宅化に反対して、筆者らは直ちに裁判を提起して闘っているがその壁は厚い。今は一審で破れたものの広島高等裁判所に控訴し、こうした理不尽な国や県や市の愛宕山開発の不当を訴え、現在も頑張っている。

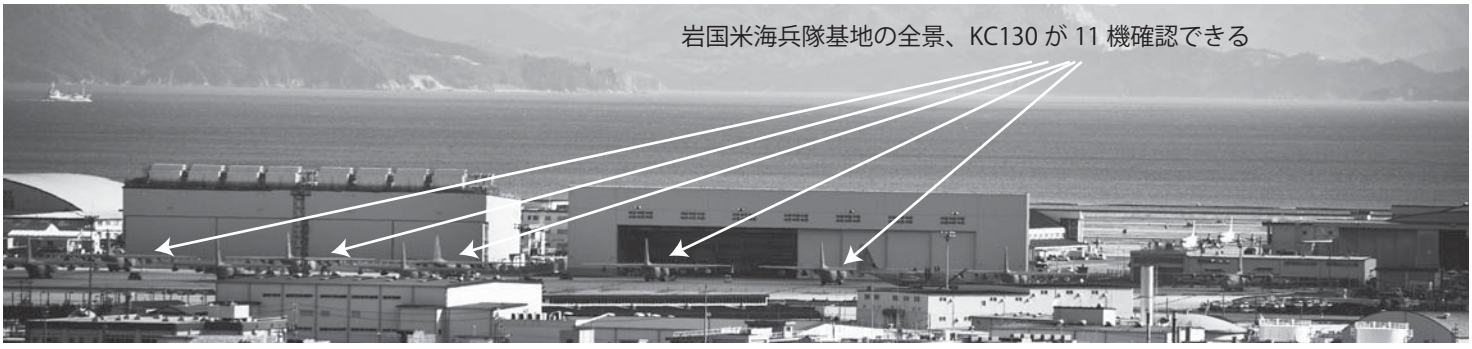
岩国におけるわれわれの闘い

その行動の証として、岩国市内を中心に頑張っている市民は開発地そばに出来た「愛宕神社」前の公園で毎月１の付く 1・11・21 日に午前中「愛宕山見守りの集い」という座込みと米軍住宅建設地周辺へのデモ行進を続け、既に２６０回余り続いている。２０１４年の元日も意気高く新年の座り初めをおこなった。

この愛宕山開発跡地の米軍住宅は厚木からやって来る米兵・家族の住宅であり、１ .４倍に広がり工事ラッシュの続く海側基地施設も厚木艦載機の２０１７年岩国移駐のスケジュールに全て照準を定めた計画である。しかし岩国市長は未だ「厚木艦載機部隊の岩国移駐を容認はしていない。」とシラを切る。

昨年１０月、岩国市議会議員選挙が行われた。筆者はこの選挙で６回目の当選を勝ち取ったが、まさにこれから４年間のその任期中に「艦載機移駐問題」の正念場となる２０１７年がやってくる。岩国市民は５年前から爆音訴訟も開始し、２月にはこの裁判も結審の見通しとなった。夏ごろには、全国で勝ち抜いている爆音訴訟を岩国でも初めて勝利できる展望が見えてきた。

こうした取り組みの積み重ねで、市民の小さな力であってもみんなで地道に頑張っているその成果が、極東一の岩国基地を骨抜きにするような現実を一日も早く切り開いていきたいものである。今年も奮闘する新年の決意だ。（２０１４年１２月２４日記）



教科書を市民の手に取り戻すとりくみを進めよう

山川　滋（教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま）

1　国の形の急速な変化

安倍政権による政治が国の形を急速に作り変えてきました。

一つは法律や制度です。教育基本法、特定秘密保護法、集団的自衛権の行使の閣議決定、原発再稼働、辺野古の基地化、教育委員会制度など、どれも今後の国の方向が大きく変わる非常に重大な問題で非常に多くの反対意見がある中、合意形成の努力もせずに数の力で強引に決める手法で政策が推し進められ、国の形が変えられています。

強引な政策実施を背景にして国民意識も大きく変えられてきています。安倍首相の心中を察すれば次のようになると思います。「日本人は昔も今も勤勉で優秀で、日本は世界の中でも歴史や伝統や文化の優れた国だ。日本は戦争もしたが、戦争はどの国もしたことだ。国として慰安婦や集団自決や南京虐殺などはしていない。日本は誇りある立派な自衛戦争をしたのだ。だから、英霊への感謝の印に靖国神社に参るのは当然だ。日本固有の領土である尖閣諸島と竹島を奪おうとする中国や韓国は悪い国だ。国民の力を結集して強い国作りを進めるべきこの時期に、『自虐的』な歴史教育で自己否定し、韓国や中国を有利にする勢力は許されない。」このメッセージを追い風として受け止めた一部の人々は『嫌韓』『反中』などと公然とバッシングやヘイトスピーチを広げているのではないでしょうか。内閣府世論調査で中国と韓国に対して親しみを感じない人は 83.1%、66.4%（過去最高）からも、国民意識があぶない方向に変えられてきていることが分かります。

しかし、このような反動勢力に反対する「のりこえねっと」などの市民の動きが活発化しています。このバッシングに反対する勢力を大きくしていく必要があると私は考えます。

2　安倍政権の政策を子どもたちに刷り込むための教科書

安倍政権が作りたい国の形を記述した教科書で子どもたちを学ばせ、安倍政権の国作りの担い手に育てるために教科書記述や採択制度を安倍政権は変えてきました。その役割を担う中学校教科書が育鵬社と自由社の歴史・公民教科書です。

この二つの教科書会社は設立時に自民党教科書議連の全面的支援を受けました。議連は 97 年に文科省教科書担当、教科書会社社長、教科書執筆者を呼びつけて侵略戦争、慰安婦問題の記述について激しい詰問を行ったり、河野談話について河野氏に撤回を迫ったりして、教科書記述に弾圧を加えた議員の組織で、その顧問が安倍晋三です。つまり、安倍政権の政策を進めるための教科書が育鵬社と自由社の歴史・公民教科書だといえます。要するに教科書問題とは、自民党政権が教育への政治介入を進めるための教科書を作らせ、その教科書を採択させるための採択制度や教育委員会制度を変えているという問題なのです。

3　安倍政権の教育政策とは？

安倍政権は自民党の「教育再生実行本部」で教育政策を作り、それを首相の諮問機関の「教育再生実行会議」ですぐに決定します。なぜすぐに決まるのかというと、両方に下村文科大臣が委員として参加しているとからです。このインチキなしくみで次のような教育改革が猛スピードで進められています。

■教科書検定基準の改悪

文科省は「バランス良く教えられる教科書」にする検定基準としていますが、自民党実行本部は「多くの教科書がいまだに自虐史観に立つなど、問題となる記述が存在している」からだと本音を述べています。

検定基準を改悪することで、安倍政権はどんな子どもを育てたいのでしょうか。安倍首相の心中を察すると次のようになると思います。「竹島・尖閣はわが国の固有の領土だ。韓国や中国は違法行為をしている。」「慰安婦問題はなかった。」「南京虐殺はなかった。」「日の丸・君が代は強制ではない。国旗・国歌を大切にすることは国民の義務だ。」「朝鮮人強制連行はなかった。」「日本は戦争中にアジアで悪い植民地政策行っていない。」「日本の戦争は侵略戦争ではない。防衛戦争だ。」「原発再稼働は日本に必要だ。」「自衛隊の海外派兵や集団的自衛権は日本を守るために必要だ。」「天皇は国家元首だ。」「男女平等よりも、男女の性差を重視した家族制度や社会制度が大事だ。夫婦別姓はよくない。」「在日朝鮮人の歴史は知らせない。」「『在日特権』はあってはいけない。」「憲法改正が必要だ。」「沖縄に基地があるのがよい。」など。実は、既にこのような意図で作られた教科書が育鵬社・自由社の教科書なのです。そして、安倍政権下で進められてきた教育政策は昨年度採択の小学校教科書を大きく変え、さらに今年採択される中学校教科書を大きく変えようとしています。

■いじめ対策＝道徳の教科化

いわゆるいじめ問題をてこにして「道徳の教科化」と「教育委員会制度の改悪」が進められています。今までの『心のノート』から新しく『私たちの道徳』という副教材が学校で使われ始めました。『私たちの道徳』の内容の特徴は規律や規範、公徳心、礼儀作法、家族への感謝、権利の主張より自分の責任、愛国心を単

刀直入に教え込もうとする傾向が強い副教材です。副教材なので使用義務はないのですが、使用調査により半強制的に使うようになってきています。

下村文科大臣は「『私たちの道徳』は『１３才からの道徳』（日本教育再生機構）を参考にした。」と述べています。日本教育再生機構は育鵬社を発行した組織ですから、いずれ育鵬社歴史・公民教科書のような戦争を肯定的に描き、基本的人権より国民の義務を重視する道徳の教科書が参入してくる恐れが十分あります。

安倍政権は強い日本を取り戻すために、すなわち日本国憲法・教育基本法を否定する「戦後レジームの脱却」をして「教育再生」を進めようとしています。脱却した先にある国の形が次第にみえてきました。それはどう考えても「戦争ができる強い国」であり、「戦争を肯定し、基本的人権より国民の義務」を信じる子どもを道徳教科書で教育しようとしています。

■教育委員会制度の改悪

昨年の６月に地方教育行政法が改悪され、今年の４月１日から今までの教育長と教育委員長を一本化した新教育長になり（現教育長の任期がまだある場合はその終了後から）、首長は教育委員会と教育問題について協議して『大綱』を策定します。

新教育委員会体制に変わった理由は、いじめ自死が発生したときに教育委員会が迅速に対応せず、その責任が明確にされなかったから、首長は任命した新教育長と責任を持って教育委員会と連携協議しながら迅速に進めていくことだと説明されています。しかし、これまでの教科書採択をふり返れば、育鵬社、自由社を採択させたい首長が教育長、教育委員長に働きかけて強引に採択させたと考えられる多数の例を見れば、今後合法的に首長が採択に関与する恐れが十分あります。さらに、育鵬社を発行する教育再生機構が教育再生首長会議を作り、育鵬社採択に向けて首長の囲い込みを行っているので、今年の中学校教科書採択では首長が介入する危険が高まっています。

４　今後の安倍政権の教育政策

上で述べたように、文科省は自民党の下請け機関になり、安倍政権の思い通りに検定基準を変え、首長の教育への介入を制度化し、育鵬社、自由社を採択させる準備ができてきたといえます。自民党の教育再生実行本部の次の攻撃対象は高校の教科書です。なぜならば実行本部の「中間まとめ」には「・・・特に高等学校の歴史教科書については、いまだに自虐史観にとらわれるなど教育基本法や学習指導要領の趣旨に添っているのか疑問を感じるものがある。」と明記しているからです。中学校歴史教科書には 97 年に全社に慰安婦問題が記述されていましたが、2006 年度版からは記述が事実上無くなりました。しかし、高校日本史教科書には現在 15 冊中 13 冊に慰安婦関連記事があるので、自民党、安倍政権は出版社に慰安婦記述を削除する圧力をかけて「自主的」に削除させようとしているのです。

昨年度、東京、大阪、神奈川等の教育委員会は「自治体の君が代強制」記述を理由に、実教出版社日本史教科書の「採択妨害」をしました。しかし、おかしなことに、全国では教育委員会の「妨害が無い」のに実教出版社日本史の採択が激減しています。広島県においても実教出版日本史の採択は激減しました。2012 年に 25 課程あったものが、教育委員会による採択妨害が行われた 2013 年には 7 課程、2014 年 6 課程になりました。これは明らかに他の教育委員会の採択妨害や政治勢力による圧力の影響を恐れた高校が実教出版を採択しないように「自主規制」した結果であると私は考えています。

今、日本の教育は政府の言うとおりの教育内容を学校で教えることが強制されつつあります。そして、政府の言うとおりに教えないと「不利益があるぞ」と言う無言の圧力がかけられています。

市民の多くは教科書の内容に触れる機会が無く、安倍政権の政策通りの内容に変わっていることを知らず、政治の介入により実際に教科書で教える教員の希望が反映せず、政治勢力によって政府の政策を教える教科書が採択されるしくみに変えられてきていることを知らない人が多いのが実態です。だから教科書の内容や採択のしくみに反対の声を上げにくいのも事実です。しかし、知らないからと言って市民の反対が多い政府の勝手な政策を「正しいこと」として子どもたちに教えることはどう考えても国による教育介入であり憲法違反なのです。今安倍政権の手に奪われようとしている教科書や教育を市民の手に取り返し、戦争反対、核兵器廃絶、基本的人権の尊重、人種差別反対、男女平等などの価値観を当たり前の価値観として共有し実現する教育を進める必要があると私は考えています。

ストップ！川内原発再稼動　10.26 広島集会　鹿児島報告

高木恭代（九条の会・はつかいち）

昨秋 10 月 26 日、反「原子力の日」にストップ！川内原発再稼動広島集会を行いました。この日には、広島では毎年講演会や行動をしてきましたが、今年は藤田祐幸さんをお呼びして「再稼動を止めて原子力の終焉へ」と題して講演をお願いしました。藤田さんが原発はエネルギー問題ではないと言われたように福１原発事故がなかったかのように原発再稼動の動きは急です。もし事故が起これば鹿児島も決して遠くはありません。9 月末に行われた川内原発再稼動反対鹿児島集会には 7500 人もの人々が集まり、これまでにない大きなものでした。その報告で広島でも多くの人に知ってもらい、行動につなげたいと思いました。以下髙木さんの報告です。（藤井純子）

川内原発再稼動反対鹿児島集会へ

原発は元々恐ろしいのですが、このたびの「川内原発再稼働」の動きを見ていますと、政府、電力会社、原子力規制委員会、そのどれもが責任を取らない仕組みが作られている感じがして、恐ろしくてなりません。ここで再稼働を許したら、タガが外れて、次々再稼働という流れになるに違いない。そういう思いにかられまして、９月２８日、鹿児島で開かれた「ストップ･川内原発再稼働・全国集会」に行ってきました。

集会は午後でしたが、午前中に原発のゲート前で抗議行動があるということなので、ついでに原発の実物を見たいし、前日の夕方に、市民グループによる「川内原発再稼働阻止のための全国相談会」があるということなので、前日から参加しました。急きょ決めたので最初は一人でしたが、途中から広島のメンバーとご一緒でき、車に便乗させていただいたり、助かりました。

薩摩川内市内の事前の全国相談会

先ず、最初の全国相談会ですが、会場は原発地元の薩摩川内市。午後４時から８時までという長時間、川内原発の再稼働を止めるにはどうしたらいいか具体的に話し合われました。参加者は、鹿島をはじめ、志賀・伊方・大間など原発現地の方々、事務局として東京の方々など、全国からおよそ１２０人の参加でした。中に広瀬隆さん、鎌田慧さんもおられて、同じ立場で議論に参加されていました。ここに参加したことで、何も知らなかった私にも「今、川内がどういう状況にあるか」がよく分かりました。

皆さま御存じのとおり、推進する側の「再稼働が必要な理由」は、初めは電力不足でしたが、次に電気料金、それも通用しなくなると「エネルギーのベストミックス」などと意味不明なことになっています。それでも、再稼働の意思だけはたいへん強固で、キチンとした議論抜きで「地元同意」の形を取ろうと躍起になっています。相談会では、その動きについて、鹿児島の方たちから説明がありました。

川内原発再稼働に伴う無茶な避難計画

川内原発は、新幹線の駅で言えば鹿児島の一つ手前の薩摩川内市にあり、薩摩川内市が「原発の立地自治体」というわけです。そして「再稼働に伴う避難計画を策定する必要がある３０キロ圏内」には、鹿児島市をはじめ、９つもの市と町があります。

推進側のスケジュールは、次のような手順で「地元の合意が得られた」ということにしようとしているわけです。

- ●その９つの自治体の住民を対象に「住民説明会」を開いて３０キロ圏内の住民には説明したことにする。
- ●次に薩摩川内市議会で「再稼働に同意」の議決をし、「立地自治体は同意」という形にする。
- ●次に鹿児島県議会で「立地自治体が受け入れた」という理由で同意の議決をする。

大飯原発の運転差し止め請求の判決がいう「原発の２５０キロ圏内に住むものには人格権が侵害される具体的な危険がある」ということなど全く無視です。それどころか「避難計画が必要な３０キロ圏内の自治体」の意見すら聞かないことにしようとしています。この滅茶苦茶なやり方を何とか止めないと、人間が生きていくための道理に反して、原発は動かされ、私たちはまた事故の恐怖に怯えることになります。

市民からの再稼働推進陳情と抗議行動

相談会での鹿児島の方のお話によると、「薩摩川内市議会は１１月の中旬」「県議会は１２月に入ってから」だろうということで、その予測に沿って、１０月２６日を中心に全国的に行動していくことに決まりました。今日のこの集会の内容も、そのとき決まったことに基づいているのですが、その後、次々送られてくるメール情報によると、今の川内はとんでもないことになっています。その後の動きはこうです。

まず、この２０日に、薩摩川内市議会の「川内原発対策調査特別委員会」が開かれ、再稼働推進の陳情が採択されました。市民からの「再稼働を推進してほしい」という陳情を受け入れましょう、ということです。自分の命を軽んじるとんでもない市民がいるものです。その特別委員会の報告を受けて、本会議でことが決まるのですが、その本会議は、１０月２８日、つまり明後日、つまり私たちが予想していたより半月以上早く開かれます。

現地では、今、様々な抗議行動が行われていて、本会議の当日にも抗議行動が予定されていて、全国にも参加が呼びかけられています。現地に行くことは出来なくても、明後日の薩摩川内市議会に向けて、ファックスや電話を使って、市長や市議会議長や議員

さんたちに訴えるなど、出来ることはいろいろあります。私たちも力を尽くしましょう。また、鹿児島県議会も当初の予想より早く、１１月初めに開催の動きです。こちらへの対応は多少時間のゆとりがあります。頑張りましょう。

7500 人が集まった抗議集会

９月２８日の集会の報告に戻ります。当日午前中の原発ゲート前の抗議行動は、お天気も良く盛り上がりました。しかし、いちばん感じたのは、原発までの距離の短さでした。新幹線の駅から車で２０分です。日本の原発はよその国に比べて人家から近いそうですが、これほど近いとは驚きました。日本の原発の中でも特別のようです。そして、一般道路から、ゲートのすぐ向こうに原発建屋が見えるのです。「人の命に無関心な人たちが作った原発」と思わずにはいられませんでした。

それから鹿児島市内に移動して、午後からはいよいよ「全国集会」です。鹿児島市の中心地にある天文館公園という大きな広場に、鹿児島では初めてと言われる７５００人が集まりました。檀上では次々にスピーチが続き、国会議員では共産党の方２人と社民党の方と元首相の菅直人さんが話されました。何人かの方は「御嶽山の噴火と川内原発の火山の危険」を絡めて話されましたが、実は御嶽が噴火したのはこの前日で、私は新幹線の電光ニュースで一報を知りました。川内原発にとって火山はたいへんな問題で、もっともっと議論され、人に知られるべきと思います。御嶽の噴火は警告と思います。ついでに言えば、一昨日、宮崎県と鹿児島県の県境にある硫黄山（いおうやま）に噴火の恐れということで「火口周辺警報」が出されています。川内原発からも遠くないところです。

集会の後、鹿児島中央駅に向かってパレードしました。印象に残っているのが、途中、巨大な街宣車が次々と反対車線に現われ、こちらを威嚇していったことです。数えてみると９台ありました。「再稼働推進」が主旨のようでしたが、言っていることは、私たちに対する罵倒と威嚇のみです。「再稼働推進」の中身のなさを象徴しているようで、興味深く思いました。（以上、高木報告）

9.28 鹿児島集会には、地元の人々に加えて全国からも駆け付け、川内原発再稼動をとめようという強い気持ちがあふれていました。その熱気を持ち帰った私たちは広島の行動として、鹿児島県知事あてのハガキを作りました。52 円の本当のハガキで主催者の意気込みを感じて是非とも出して頂きたいと思いました。集会に集まってくださった皆さんの中には即座に書いてくださった方も多く、集会が終わると受付では 120 枚ものハガキを預かり、その日の内に出すことができました。また、薩摩川内市議会の採決に間に合わせようと家に帰って FAX をしてくださった方も多かったようです。

また 9.27 の原発再稼動阻止ネットの相談会によって、10 月 26 日は東京経産省前をはじめ、ストップ川内原発再稼動の全国的な動きとなりました。川内原発の近くには経産省前と同様のテントが張られ、交代で監視は今も続けられています。10 キロ圏内、30 キロ圏内など川内原発関係市町村との公開討論会を要請するなど働きかけをしている人たちもいます。九州電力へ再稼動をするな、周辺自治体や住民の声を聞けと働ききかけている人もいます。この1月25日には再度、鹿児島市で大集会が行われる予定で、その前日には全国阻止ネットの相談会も計画されています。昨 9 月よりも多くの人の参加を呼び掛けられています。川内原発は年明けには再稼動かと言われていましたが、認可に係る九条の九州電力の再々補正書を待たねばならず年度内も危うい状況となっています。規制委員会の田中俊一委員長が「新基準によって再稼動を認めたとしてもそれが安全を保障するものではない」とはっきり述べているように、地震による破壊、火山噴火の危険性、規制委員会の暴走…　再稼働などできる状況でないことは明らかです。私たちは決してあきらめず、時に学び、時につながりながら原子力の終焉にむけて行動していこうと思います。（藤井純子）

西日本新聞　2014年(平成26年)9月28日　日曜日

川内再稼働阻止へ 全国と連携

反原発運動の100人、薩摩川内市で交流

――きょう鹿児島市で集会

九州電力川内原発の立地する鹿児島県薩摩川内市で27日、全国で反原発運動を続ける約100人が参加して交流会が開かれた。参加者は、各原発の再稼働に向けた動きを報告。最も早く手続きが進む川内原発の再稼働を阻止すれば、他の原発も稼働できなくなるとして、川内原発の阻止に全力を挙げることを確認した。

交流会は、同市の市民団体「さよなら原発いちのせ会」などの主催。28日に鹿児島市である反原発集会の参加者を対象に、連携強化を図ろうと呼び掛けた。

「再稼働阻止全国ネットワーク」の柳田真共同代表＝東京＝は「川内原発再稼働に向けた手続きは10月から来年1月がヤマ場。この4カ月を『決戦』と位置付け全国で行動しよう」と提案。川内原発建設反対連絡協議会の鳥原良子会長は「再稼働を止める住民の思いを一つにしたい」と訴えた。一方、川内原発そばの海岸には26日、西動家14人が再稼働反対をアピールするテントを張った。神奈川県藤沢市の淵上太郎さん(72)は「国が再稼働をあきらめるまで設置を続けたい」と話した。（渕之前八州）

川内原発 阻止!!! 一番手 再稼働

「再稼働阻止は川内原発から」と呼び掛けた交流会

「川内」再稼働の反対集会

鹿児島県の反原発団体は二十八日、九州電力川内原発（同県薩摩川内市）の再稼働に反対する集会を鹿児島市で開いた。参加者は「反対の民意を踏みにじる再稼働は許さない」と訴えた。実行委員会によると全国から約七千五百人が集まり、集会後は市内をデモ行進した。

集会には菅直人元首相も出席し、御嶽山の噴火に言及。「川内原発の周辺には霧島（連山）や阿蘇山があり、日本でも活火山が多い地域だ」とし、再稼働への懸念を示した。

福島県川内村から埼玉県志木市に避難している元村議の西山千嘉子さん(75)は「福島事故の被害やその現状を忘れないでほしい」と強調。川内原発だけでなく、全国にある原発の再稼働を阻止する必要性を訴えた。

お断り　「心にふれる話」は休みました。

「周辺に活火山 危険」

命と大地を放射能から 川内原発再稼働反対

川内原発の再稼働反対を訴えてデモ行進する参加者＝28日午後、鹿児島市で

《反原発の歴史に学ぶ》 電産中国の闘い ②

頼　秀文（元電産中国書記長）

■反合理化闘争から反原発闘争へ

１９６０年代から７０年代にかけての高度経済成長の時代、電産中国は反合理化を基調に組織人員の漸減という状況にも負けず、安全闘争（感電死亡事件における裁判闘争勝利）、出張所統廃合、発変電所無人化、事務機械化、旧設火力廃止などの反合理化の課題、スト権奪還や反差別闘争、さらには１０年間闘って撤回させた女子２５歳定年制反対の闘いなど数えきれないほどの課題について、次から次へと闘いを続けてきました。いかに少数であっても労働者の大義に立って闘えば、職場で孤立することなく闘いを大きく前進させることができるということ証明してきたのであります。

また、「公害反対闘争」が高揚する中、電産中国においても「加害者にも被害者にもならない」という立場から「公害対策委員会」を設置し、資料収集や教宣活動、地域共闘を中心とした取り組みを進めると同時に原子力問題についても討議の対象となっていました。そうした中、１９７１年春、機関紙「電産中国」で、「原子力発電所に対するわれわれのとりくみ」と題する連載記事を掲載、原発の危険性を明らかにしていったことが反原発の取り組みの始まりです。

そして、島根原発が試運転を開始した１９７３年、この年の運動方針ではじめて“原発は放射能公害をもたらし、農漁民の生活を破壊する”と書かれており、次の年の７４年度の大会方針では反原発を電力労働運動の闘いの柱に据えねばならないとしています

１９７４春闘では、動き始めたばかりの島根原子力発電所に半日ほどピケを張って封鎖するというストライキを実施しており、原子力発電所でのストライキというのは、これが史上初めてだろうと思います。

具体的取り組みとして、１９７５年秋、「島根原発竣工祝金」（一万円）の受領拒否闘争を実施するとともに、７５年末一時金闘争と結合し「反原発」の立看板・垂れ幕設置などの宣伝活動を展開しています。また、１９７６年の夏から秋にかけての「伊方原発への核燃料輸送阻止闘争」（反原発山口県労組共闘が、徳山港からの核燃料輸送を阻止する行動に連続して取り組む）に毎回３０～５０人の電産組合員を大量動員する等の地域闘争に積極的に参加したことにより組合員の意識も高まっていきました。

こうした中、運転をはじめた島根１号炉につづいて、第二の候補地として山口県の日本海側というのが候補地として上がってきたのです。

■「反原発ビラ」と不当処分撤回闘争

１９７７年6月１３日、中国電力は山口県豊北町の神田岬に 110 万ｋＷ２基の豊北原発建設計画を発表。

この発表に対し、電産山口県支部は翌１４日、中国電力に対し計画の中止を申し入れるとともに、同年７月開催の電産山口県支部の定時大会において「ストライキをかけ、建設を阻止するため奮闘する」との方針を決定し、１０月２６日には、電産山口県支部を中心に労働運動史上初の「反原発ストライキ」を中国電力山口支店前で決行し、電産労組の電力労働者として反原発を闘う決意を内外に表明し、注目を集めることになりました。

しかし７８年に入ると山口県知事が『豊北原発の事前調査受け入れの機は熟した』との発言をするなど豊北町において「事前調査」を受け入れるか拒否するかをめぐって推進側と反対側の攻防が山場にさしかかっていたことから、電力労働者の立場から原発反対を豊北町民に訴える反原発ビラ「原発だより NO. １」を２回に分けて全戸に配布しました。

「原発だより」は、ビラ１枚程度のもので、『私達中国電力で働く労働者（社員）は、原発をつくることに断乎反対しています。その理由は、①常に放射能がばらまかれる。②大事故が起こらないという保障がない。③漁場が完全に破壊される。④核の軍事利用に道を開く。⑤電気料金が高くなる。⑥大企業に奉仕をし、地域住民や労働者を苦しめるものである。⑦エネルギー危機は作り話である。電力不足はウソである。』また、「島根原発の社員は地元の魚は食べません」「石油は３０年で無くなるのか」「大事故が起これば豊北町は全滅」「山側の方が放射能が多く降る」「計画どおり原発が動いても石油の３％にしかならない」「電力は本当に足らないのか」等の見出しでそれぞれ記事が掲載されています

この「ビラ配布行動」に対して、中国電力は「原子力発電所建設推進の協力について」と題する社長名による通達を出し、従業員に対し原発推進に協力するよう強要するとともに公然と組合弾圧を行うことを表明。そして中国電力は、４月１２日、電産組合員（山口県支部委員長他７名）に対し、『会社の体面をけがし、会社に不利益をおよぼした』として懲戒休職２ケ月を最高とする不当な処分攻撃を行ってきました。

この不当処分の撤回を求めて４月１８日より５５日間にわたる本店前での座り込みに入りました。平和公園近くの電車通りに面した中国電力本店前にテントを張り、電産旗をはじめ「原発反対」「不当処分を撤回せよ」などのプラカードや立看板とともに豊北町から寄贈された大漁旗が並び、本店社屋壁には１０００枚を超えるステッカーが貼られ、毎日１０名程度の組合員が交代で座り込み闘争を敢行し、広島市民をはじめ全国各地より激励が寄せられ、支援の輪が大きく拡がることとなりました。６月１２日には、中国電力の本店構内において広島地区労傘下の支援も受け総勢３００名の組合員が結集する中で不当処分総決起集会を開催し、「ビ

ラ配布に対する不当処分を粉砕する決議」を確認し、中国電力に対し「不当処分の白紙撤回」を求める団体交渉の開催を要求したが、社長以下重役連中はすべて社外に逃亡する始末でありました。

こうした中で電産労組は、５月１４日に行われた豊北町長選挙で原発反対派の藤井氏が大差で圧倒的勝利を収めたことや町議会も山口県や中国電力に「環境調査受入れ拒否」ならびに「原発立地拒否」を正式に通告するという情勢の中で、豊北原発建設発表１年目であり懲戒休職最終日の６月１３日、山口地裁に「処分取消し」を求める訴訟を起こしました。

■電力独占資本を包囲する統一戦線

裁判では、原発の危険性とともに「私たちは、好むと好まざるとにかかわらず電力会社で働き、そして電力を生産しなければならない。電力の生産だけならいいが、死の灰とかプルトニウムだとか、極めて反社会的な社会に害毒を流すようなものまで強制的に生産させられる電力労働者の責務としても地域の住民や広範な国民の皆さんに我々の立場を明らかにしていくことが任務である」とビラ配布の正当性を主張するとともに「原発問題は全人類の現在と未来にかかわる重要な問題であることから、会社がいくら弾圧しようとも我々の闘いをやめる訳にはいかない」ことを強調し、処分の不当性を訴えたところです。

裁判闘争も、１９９２年３月３日の「最高裁判決」（上告を棄却する）に至るまでの１４年有余の長期となる中、山口地区や広島の労働組合が厚い支援体制で裁判を支えてくれました。そしてそこから新たな反原発運動が発展し、１０・２６の反原発の日の座り込みも不当処分撤回をも含めた集会として多くの労働者、市民が参加する場へと発展していきました。山口では豊北町の漁民による多数の大漁旗をかかげての参加もあり、やがて上関原発反対へと引き継がれていきました。

そして、「処分」から５年が経過した１９８３年８月には、中国地方で反原発・反火電などを闘う地域の住民運動や市民運動の１８組織（電産も特別会員）で「中国地方反原発反火電等住民運動市民運動連絡会議」が結成され、それは各地点の闘いを点から線につなぐ画期的なものでありました。

この年の電産中国は、『中期展望に立って』と題する活動方針を決定しており「たとえ企業の中では少数であっても、幾重にも電力独占資本を包囲する巨大な統一戦線をつくりながら闘えば、あらゆる闘いを勝利的に発展させることができると確信する。」との方針をかかげ、「連絡会議の発展に電力労働者の立場から積極的に参加協力するとともに全国運動の強化に努力する。」としています。

島根原発１号炉の試運転を契機に労働運動としてスタートした反原発の闘いでしたが、必然的に地域住民との共同の地域闘争になったわけで、こうした電産の反原発運動は、電産の歴史の中でも大きな闘争のひとつであり、戦後日本の労働運動史の中にも記録に残る闘いではないだろうかと思います。

しかし、１９９８年１２月６日、電産中国と中国電労はそれぞれ解散大会を開催し、翌７日の統一大会をもって、半世紀におよぶ電産の歴史に幕を下ろすこととなりました。組織形態はどうであれ、社会的視野で運動しなければ、電力労働者の社会的責任が問われることになるのではないかと思われます。

裁判闘争の間に発生したスリーマイルとチェルノブイリ原発の重大事故、そして福島原発事故を経験し、運動の基調であった「核と人類は共存できない」との想いを一層強めているところです。

そして今年５月２１日、福井地裁で関西電力大飯原発３，４号機の運転差し止めを命じた歴史的な判決が出されました。「原発の稼働は法的には電気を生み出す一手段である経済活動の自由に属し、憲法上は人格権の中核部分よりも劣位に置かれるべきだ。自然災害や戦争以外で、この根源的な権利が極めて広範に奪われる事態を招く可能性があるのは原発事故以外に想定しにくい。具体的危険性が万が一でもあれば、差し止めが認められるのは当然だ」とし、あらゆる点にわたって原発運転再開を退ける内容となっており、画期的な判決と言えます。憲法で保障された人格権が日本の法制下で最高位の価値があるのだということを今回の判決で明確にしたことは重要な意義があると思います。電産組合員として微力ながら反原発運動に関われたことを誇りに思っています。

電産が豊北町一帯に配布した「原発だより No.1」

【参考資料 No.1】

中国電力の社員も原発に反対しています。

原発だより

この車に御注意を！
トヨタカローラ 白
ナンバー 37-52
ナンバー 37-53
ナンバー 37-54
原子力準備本部の車です。

山側の方が放射能が多く降る

島根原発の社員は地元の魚は食べません

石油は三十年で無くなるのか

計画どおり原発が動いても石油の３％にしかならない

電力は本当に足らないのか

豊北町民と共に守ろう原発の生産反対と生活を

大事故が起れば豊北町は全滅

戦争・被爆体験「記憶の継承」２―海老根勲さん（元中国新聞論説委員）と子どもたち―

吉川徹忍（元私立広島城北学園小・中・高校教諭）

戦争・被爆体験聞き取り調査―被爆者の苦悩と受け継ぐ責務

1999 年 5 月 3 日、部員とその親と共に聞き取りに伺ったのは被爆者の姜文熙（カンムンヒ）さん（証言時 80 歳、在日本大韓民国広島県地方本部の原爆被害者対策特別委員長）。姜さんとの出会いも地域学習の延長にある。近・現代史を学べば、必ず突き当たるのが民族問題。韓国・朝鮮人被爆者は約 4 万 8000 人。3 万人が死亡したといわれるが定かではない（「白いチョゴリの被爆者」県朝鮮人被爆者協議会編）。これまでのクラブ活動で在日朝鮮人（李（リ）実（シル）根（グン）さん）との交流を通じて姜さんと出会った。26 歳の時、爆心地より 3.2 ㎞地点の広島三菱造船所（軍需工場）で被爆し、市内の炎上と無数の死者を目にされた。父と弟は被爆死、家族の多くも被爆後遺症。韓国人原爆慰霊碑前で、日本の朝鮮半島植民地支配による土地の取りあげ、創氏改名や神社参拝の強制などの歴史を語られた。碑に納められている名簿について、名前が分かっているのは約 2400 人とわずか 10 分の 1 に驚く生徒たち。創氏改名は、「朝鮮人を日本人にすることであり、朝鮮人であることを否定することなのです」（中 2 生）。「やむなく日本に来たり、無理やり連れてこられた上、更に原爆にあい身元まで分からないなんて悲しすぎると思いました」（中 2）。姜さんの苦悩とやさしいお人柄に寄り添う中、加害の歴史に学び、民族の和解と共生を目指す意欲に目覚め始めた。「僕たちが差別をなくし、次の世代にこの出来事を伝えることを決意しました。姜さんたちの苦しみを無駄にしたくない。民族の壁を乗り越えて、世界が一つになる日を願う。僕たちの世代が作り上げていかなければならない責任だと思いました」（中 2）。

1999 年 6 月 12 日、聞き取りをしたのは戸坂在住で被爆者の小泉利平さん（証言時 74 歳）。社問研部員である孫（中 2）の聞き取り調査活動が家庭内の話題になった。ご自宅で、戦争を知らない息子夫婦や孫は勿論、部員やその親、ＰＴＡ役員たちに向き合い、被爆体験を語るのは初めてとのこと。20 歳の時、爆心地から 1.5 ㎞の鶴見橋で建物疎開作業中、光線・爆風により強い衝撃を受け、地面にたたきつけられ、周囲は語り尽くせない惨状。逃げ惑う皮膚が垂れ下がった人々。子を背負った火傷の母親が割れた木の橋に挟まれ「助けて！」と叫ぶも誰も助けられず、生き地獄の中を比治山へ。市街は炎に包まれ次々吹き上げる白いきのこ雲。倒れた屋根を乗り越えながら、家の下敷きになっての声を聞くも姿なく。戦後、白血球が少なく苦しみの中、「遺伝」という文字が頭をよぎり薄氷を踏む思いで生きてこられた。語りの途中、何度か背中のケロイドの火傷あとを見せようとしては躊躇された。「火傷の痕を見せるとおっしゃっていたが、やっぱりやめようと、ためらわれた。それは、自分の深い深い心の傷を、今も突き刺さっている痛みを僕たちに見せるのに勇気がいる。いまだ心の傷はいやされていない」（中 2）。生徒たちの真剣な目、奥さんの励ましで上着を脱がれ背中を見せられた。その時の状況を思い起こした生徒は小泉さんの背中を見て、「話を聞いたことで、後世に伝えることを義務と思い、二度と戦争・原爆を繰り返さないことを話していきたい。命について考えさせられ、すばらしい命をみな大切にするよう、核兵器をなくす努力をしていきたい」（中 2）と記した。

証言者・保護者の生徒たちへの願いと「開かれた学校」目指して

お年寄りたちからも生徒たちへ感想・お礼やメッセージが次々と届いた。聞き取り調査をした翌日の、小泉さんからの便り。「前途ある年若い方々に、あのような体験を熱心に聞いていただき、本当に嬉しく、どうやって後生に伝えることができるかと心にいつもかかっておりましたが、今日良い機会をお与え下さって、感謝しております。いつの世も戦争とは哀しいものです。何も得るものはあるとは思われません。遠い昔、出征兵士を日の丸の小旗を振って笑顔で送りましたが、もう、後の世は、心にもない笑顔で父や息子や孫を戦場に送り出すことがないように、皆さまのお力をいただきたいと願っております」。文化祭（社問研の姜さん・小泉さんからの聞き取り調査報告・感想）で、姜さん・海老根さんと一緒に展示発表を見た後の、小泉さんからの便り。「部員の方たちが今大切な問題を一層掘り下げ、考えながらの学習ぶりがよく見えました。こんなにも真剣に考えていてくださることに感謝しております。お陰様で、私どももまた元気を出して生きることの勇気が湧いてまいりました」。「人さまにお話しておきたくても、良い時を得ず、何もお話できないまま亡くなってしまわれた多くの方々に比べれば、本当に私は幸せ者だと思います」。

これらの聞き取り調査は、取材されたＰＴＡ広報部によって、年 1 回発行の「ＰＴＡ新聞」でその都度保護者に詳細に報告されていった（以下その一部）。「私達が、クラブを訪ねた日、今年も昨年同様、戸坂にお住まいのお年寄りから聞き取りするための質問事項を活発に話し合っており、受け身の授業にはない生徒のパワーに、驚かされました」。聞き取り当日、「佐々木淳君（高 1）のご両人へのお礼の言葉の中で『教科書では一行一行と書かれているが、その一行と一行の間には本一冊分になるほどの話があると言う事が今日わかり貴重な体験ができました』と。受け止め方は生徒たちそれぞれ異なっていても、教科書では得られない“生の声”を聞き、深く物事を考える場となった事は確かです。このような機会を与えて下さっていることに感銘いたしました」（1996 年 12 月 17 日、広島城北学園中・高等学校ＰＴＡ新聞「社会問題研究部を探る」より抜粋）。

＊海老根さんの記事

「姜さんは語った。『生徒たちの父母も、戦争を知らない世代です。地域社会の人々の人生に触れることから歴史の全体像に迫る学び方は貴重な試みだし、世代間の体験継承を図る上でも、教訓的な実践だと思う』。城北校の試みは、今のところ 1 サークルの枠から出ていないが、おじいちゃんやおばあちゃんの出番も演出し、ＰＴＡが地域の教育力を高める大きな存在であることは証明できたのではないか。『開かれた学校』を実現させるには、まず

学校の側が地域に一歩踏み出す努力がいる。家族までが『個人化』している今日だからこそ、近隣社会の再生を感じさせる実践が、いっそう貴重に思えるのである」（1999 年 11 月 21 日、解説欄特集「『開かれた学校』お年寄りと築く－広島城北中社会問題研究部」より抜粋）。

李実根さんと海老根さんと生徒たち

李実根さん

複眼的な検証と個性・民族を超えたつながりを求めて

社問研が設立された 1993 年に李実根さん（広島県朝鮮人被爆者協議会会長）と生徒たちは出会った。李さんの発案により、高暮ダム（現庄原市高野町）朝鮮人強制連行犠牲者追悼碑建設のための募金活動（高校生平和ゼミと共に）が始まり、碑建立（1995 年 7 月）。以来毎年碑前祭が執り行われ、部として参加してきた。李さんや朝鮮中・高級学校生徒たち、更に地元住民との交流を通して、「過去の戦争責任を心に刻み、民族の和解を求める」という自覚を培ってきた。北朝鮮での水害・干ばつで深刻な食糧危機に対し、1998 年、部では「子どもたちに鉛筆を贈ろう」と活動を始め、文化祭などで鉛筆と募金を集め、「食糧支援訪朝団」の李さん、同行記者・海老根さんに託した。帰国した李さんは部員に、「学校に鉛筆を持って行ったら喜んで受け取ってくれた。鉛筆を買うお金もないのです」と伝えられた。

このころ、海老根さんと生徒たちとは障害者問題や東アジア情勢をめぐって、海老根さん執筆の新聞記事を教材に対話や手紙のやり取りをしていた。「私の記事が君たちの学習の一助になっていることを知り、記者としてこんなにうれしいことはありません。（中略）いくつか、複数のニュースを照合してみるくらいの、いわゆる『複眼の思想』を培う努力が大切なのです。『真実』とは、新聞やテレビが伝えることではなく、むしろ複眼的な検証を通して自分の心の中で見極め、培った信念だ、と私は言いたいのです。（中略）君たちの学習も、そうした真実を探す長い旅の一歩一歩でしょう。その意味では、君たちも私も今、同じ道を歩いているのです」（1999 年 1 月元旦付け便り：海老根さんから中 1・綿岡洋平君と生徒のみなさんへ）。多角的な視点からの学習・検証、そして自ら考え・判断することの大切さを生徒たちは学んだ。

社問研は、2000 年 6 月 10 日、李さん（証言時 70 歳）から朝鮮人被爆者問題を総合的に学ぶための聞き取りをした。海老根さんも馳せ参じてこられた。李さんは朝鮮人被爆者問題の「責任」を明らかにされた。日本が朝鮮を植民地にしたこと、強制連行し土地や財産を奪ったこと、戦争をした国の民族でもないのに被爆させられ、戦後、差別を放置してきたことなどを指摘された。したがって、朝鮮人はもとより日本人の被爆者、そして世界に、日本は戦争をしないことを表明してほしいと。最後に、差別・偏見に惑わされず、過去の歴史を正確に認識して、今後の友好のために何をすればよいか考えてもらいたいとの期待も述べられた。日頃のニュースでは学べない内容だった。「李さんの話により僕の原爆に対する視野がより一層広がった」（中 3）。「差別というものは決してあってはならないと思います。相手との違いを認められるようにならなければなりません。過去あったことは僕たちにはどうしようもないことですが、過去を考え、認識するということは大切だと思います。1 つの出来事を 1 つの側面で見るだけでなく、他方から見ることも重要なことだろうと思います」（中 3）。「僕たちはきちんと過去を学び、未来に向けてどの国とも、特に隣の中国・韓国・北朝鮮との＜友好の橋＞を築かないといけません。そのためにはまず相手の気持ちを正しく理解し、互いに信頼できる関係」にしたい。「しっかりと社会や政治の動きを見つめて行動し、一人ひとりが思いやりを持って接していき、友情の輪を創っていきたいです。僕たちが動かす社会なのだから…」（高 1）。

以上、クラブでの聞き取り調査の一部を紹介した。中学で歴史の授業（1・2 年生）を受け持った時は、可能な生徒たちには祖父母などの家族への聞き取り（被爆・戦争・戦時下の生活体験）を依頼し、内容はすべて「歴史通信」として生徒・保護者に了解を得た上で配布し、みんなで読み合わせた。個性的で多様な証言者（お年寄り）の心にふれあうことで、自分の人間的な可能性を掘り起こすことにつながればと思った。証言者も辛い体験を子どもたちに語れたことで、背負った重りを下ろされた。後世に伝える意欲と意味を自覚され、生きる元気を取り戻された。しかし、被爆者の平均年齢は 79.44 歳、20 万人を割り込んだ（2014 年 3 月末）。時の流れには抗えない。「記憶の継承」をわがこととして語り伝えていく困難さの中で、若者たちは悩んでいる。それでも記憶を次代に継承する術 (すべ) はあるはずだ。

新たな体験継承の課題—原爆文学・詩

原爆文学・詩の朗読で新たな体験継承の課題を提起されたのは、2000 年中国新聞社を退職された原爆文学研究者でもある海老根さん（「広島花幻忌の会」事務局長）。生徒達に愛情を注ぎつつ、原爆文学・詩継承の必要性を語った。私もその影響で、繊細かつリアルで透明感のある原民喜の作品を初めとした原爆文学・詩の味わいを感じるようになった。被爆者であり、冷静な感性で惨状を克明に描写し、作家の責務に徹した原民喜（「夏の花」他）や峠三吉（「原爆詩集」他）。彼らの文学・詩で描いた世界は、これから起きかねない近未来の世界としても捉えられる。何よりも作品は比較的分かりやすく、原爆への怒り、命や他者に対する深い思いもある。これまでの聞き取りで学んだ内容に思いを重ね、原爆文学・詩の言葉をかみ締めてくれるはずだ。生徒たちにヒロシマを語り継ぐ主人公になって欲しい。原爆投下を単なる歴史事実で終わらせるわけにはいかない。

2003 年 1 ～ 2 月、中学校行事の『特別活動』の中に、「ヒロシマを学び発信しよう」という分野の授業を設け、私が担当した。希望者 70 数名を 3 日間に分け、3 回ほぼ同じ内容で実施。いずれも峠三吉詩碑の前に集合。「ちちをかえせ　ははをかえせ」…。

詩碑を囲んだ中 1〜3 年生参加者 24 名余全員で「原爆詩集」の朗読の後、原民喜詩碑等をフィールドワーク。借りた会場で、ボランティア講師の海老根さんや丸屋博さん（被爆医師・詩人）から、原民喜と峠三吉を学んだ。

海老根さんの企画で毎年夏、「8・15 原爆・反戦詩を読む市民の集い」が原民喜詩碑の前での開催行事になった。折しもイラク戦争で、米軍が劣化ウラン弾を使用、その放射能による健康被害が指摘されていた。部員たちと集いに参加することにし、峠三吉についての事前学習会「原爆文学と劣化ウラン弾」を実施。6 月 28 日、海老根さんが学校に駆けつけ、生徒たちに作家と作品の解説をされた。

4 か月前に、当時中 2 生として『特別活動』に参加し、原爆詩に関心を抱いた生徒が社問研に入部した。「海老根さんの講義が始まりました」。「原爆詩集の部員たちによる朗読が始まり、僕も目で追っていると『仮繃帯所にて』の時に、高 2 の綿岡先輩が『何故こんな目に遭わねばならぬのか』と朗読したときの声の出し方などでその場面が自分なりに想像できたと思います。この詩集などを通して、もっとヒロシマのことを勉強していこうと思います。また海老根さんの講義を聴かせて頂くことが楽しみです」（中 3）。8・15 当日。生徒たちは「集い」で原爆詩を朗読した。自ら創作した反戦と平和に関する詩も読み上げた。「戦争・被爆聞き取り活動で個々人の体験を学んだ。その具体性の中味から真実を見つめ、今日的問題について考えてきた。更に原爆詩人の作品から、原爆の生々しさ、歴史的事実を学べることが分かった。特に被爆者が減っている今日、今まで以上にこのような詩をもう一度、再発見することが、ますます重要になってくると思う。詩を読んで、リアリティーを感じ、迫ってくるものを感じた。聞き取りはもちろん、詩も併せて深めていきたい」（高 2）。

おわりに―別れと「伝言」

2008 年 3 月 8 日以来、海老根さんは体調を患い（がん）、入退院を繰り返しての闘病生活に。病室でも生徒たちの成長に希望を抱き、平和希求の「願い」を託そうとされた。「海老根さんのようなジャーナリストになりたい」と語り合っていたのは生徒たちだった。

2012 年 1 月 24 日夜 8 時頃、私は病院のベッドに横たわっておられる海老根さんと携帯電話で短い会話をしたのが最期だった。翌 25 日朝 8 時過ぎ、突然海老根さんの息子さんから「先ほど父が亡くなりました」との電話をいただいた。享年 70 歳。
12 月末、奥様を招いて海老根さんを偲ぶささやかな集いで、在学中社問研の部長だった卒業生は別れを惜しみ、思いを述べた。「中学・高校 6 年間、海老根さんにはお世話になっていました。強烈に覚えている言葉があります。『人間の命に軽い、重いがあることが本当におかしい』。海老根さんの活動は『人間の尊厳』『人生の尊さ』『多様である人間のすばらしさ』を一つひとつ文章に紡ぎ、世の中に提示していくことだったと強く感じています。被爆者・障害者・マイノリティの方などの一人ひとりの人生に真正面から向き合い、温かい心で対話しておられた姿を忘れることは出来ません。海老根さんから教えてもらったことは生き続けていますし、今後もずっと生き続けるでしょう」（綿岡洋平さん・28 歳）。

2013 年秋、奥様をはじめご遺族のご好意により、今後の生徒たちの学習のお役に立てばという思いで、広島城北中・高等学校図書館に海老根さんの全蔵書 340 冊（ヒロシマ原爆関連 122 冊を含む）をご寄贈いただいた。2014 年 2 月、図書館の棚に蔵書の特設展示コーナーと共に、海老根さんの写真とプロフィール・編著書籍紹介が掲示された。2月28日、年1回発行の「広島城北中・高等学校図書館報」で、私は全校生徒・保護者に詳細な経緯を報告させていただいた。

折しも 2 か月前の前年 12 月 6 日、「知る権利」を制限する「特定秘密保護法」の成立。さらに立憲主義・平和主義をめぐって「集団的自衛権行使容認」という日本国憲法の根幹に関わる問題が浮上している時だった。私が中 3 公民授業で、生徒たちに最後の「自由意見表明」として提示したテーマは、「自分の一番好きな日本国憲法の条文と感想」（2014 年 2 月 15 日）。第 9 条を選んだ 1 人は記した。「第二次世界大戦後、日本国憲法の中で第 9 条が決められたことで、今の自分たちがあり、国際社会があると思う」。「僕はこの世代に生まれて、戦争の経験のある方がいる中、話が聞けたりでき幸せだったと思う。いずれ日本にも戦争を経験した人も亡くなってしまい、戦争の恐ろしさを知らない人ばかりになるかも知れないが、憲法改正など軽々してほしくない」（中 3）。
3 月、私は 35 年間の学園勤務を終え、教師生活の幕を閉じた。新たな形で海老根さんの「願い」は蔵書を通して生徒たちの平和・原爆学習や研究の一助として、読まれ継承されていくことを願っている。それが亡き海老根さんの「伝言」ではないだろうか。

（海老根さんはもとより、文中の証言者である藤井頼市さん・姜文熙さんともお亡くなりになりました。ここに感謝の念とともに哀悼の念を捧げます）

峠三吉の碑の前で

原民喜詩碑の前で「8・15 原爆・反戦詩を読む市民の集い」

広島から沖縄を考える

米軍普天間基地即時閉鎖！　辺野古に新基地はいらない！ヒロシマ集会報告

藤井純子

昨年 12 月 5 日、沖縄から安次富浩さんを迎え「米軍普天間基地即時閉鎖！辺野古に新基地はいらない！　ヒロシマ集会」を行った。この実行委員会の呼びかけ人の一人の土井桂子さんが司会、実行委員会事務局を担うピースリンク広島の世話人の新田秀樹さんが開会あいさつ。広島集会開催の経過と今後も沖縄と連帯していきたいと力強く語り、80 人の参加を得て内容のあるいいスタートができたのではないか。

昨夏、政府はオール沖縄で反対する中、辺野古沖埋め立てのためのボーリング調査を始めた。2004 年には海での抗議活動で翌年、掘削開始前に中止に追い込んだが今回はブイやフロートを設置して海上の立ち入り禁止区域を勝手に広げ、海上保安庁は阻止行動をする船やカヌーを強制的に陸に戻している。これを本土の人間が黙っていてはいけない、広島からも声を挙げようとヒロシマ集会の準備を始めた。今回はピースリンクだけではなく沖縄県人会や沖縄、岩国、呉など基地問題に取り組んでいる人たちに呼びかけ人になって頂き、実行委員会をスタートさせた。広島と沖縄をむすぶつどいの事務所で会議を行い、ピースリンクは裏方としてチラシやハガキ、インターネットで沖縄を米軍基地の島にさせてしまっている状況に心を痛めている人たちに呼びかけをした。辺野古の新基地建設は日本全体の有権者の半数以上が反対しているにもかかわらず、安倍政権はそれを無視して強引に進めているが本土の報道の取り扱いは小さくてなかなか知らされない。とにかく知ってもらいたいと思い、美しい辺野古崎の写真の入ったチラシを街頭や三線の演奏会の会場前で配布をした。

集会ではまず最初に呼びかけ人の一人、沢田正さん発案で先日亡くなった菅原文太さんが 11 月 1 日の沖縄県知事選挙 1 万人うまんちゅ大集会であいさつされた映像を映し出した。菅原さんは、…政治の役割はふたつあります。ひとつは、国民を飢えさせないこと、安全な食べ物を食べさせること。もう一つは、これが最も大事です。絶対に戦争をしないこと！　　子どもたちに、子どもたちだけじゃない、戦地へ行かせるようなことがあってはならない。今の政府は、まさに戦争が起きること、戦争をすることを前提に、沖縄を考え、沖縄の人々を裏切り、辺野古を売り渡した。沖縄の風土も、本土の風土も、海も山も、空気も風も、すべて国家のものではありません。そこに住んでいる人たちのもの。辺野古もしかり！　勝手に他国へ売り飛ばさないでくれ。しかしアメリカにも、中国にもいる。韓国にも良心ある人々はいる。国が違えど、同じ人間だ。みな、手を結び合おうよ…　参加者の皆さんも感動してくださった。

2 つ目の映像はこの 9 月の埋立のためのボーリング調査とそれを止めようとする辺野古のたたかい（ニューズリール NO8 より）。強行な国の態度、海上保安庁、警察の力に怒りがこみ上げる。

続いて沖縄のヘリ基地反対協共同代表の安次富浩さんのお話を聞いた。この協議会は、辺野古への基地建設の是非を問う住民投票で、基地建設反対派 21 団体で結成され、安次富浩さんは連日のように、辺野古のテントに通い、この座り込みはすでに 3850 日を超えているそうだ。

安次富さんは、沖縄の人々は県知事に辺野古に基地は作らせない！という翁長雄志さんを選んだ。彼は那覇市長を務めていた保守で始めは辺野古新基地に賛成の態度を示していたが、沖縄県民のこれ以上の新基地は受け入れられないという強い思いを受け止め、基地建設反対の先頭に立つようになったのだと言う。13 年 1 月の 41 沖縄全自治体の新基地を作るなという建白書を無視して基地建設進める政府、公約をほごにした仲井真前知事の態度は彼をより強くしたとも言う。なるほど新知事の所信表明演説でも、埋め立て承認の手続きを検証して政府に移設計画の見直しを要求する、米軍基地は沖縄経済発展の最大の阻害要因だとして基地経済からの自立を目指す考えをしっかりと示したことからも明らかだ。市民も辺野古で今後の国のボーリング調査阻止のたたかいに備えてカヌーの練習をし、沖縄の山や海を知り尽くした人々によって抵抗運動が続けられている。

沖縄は、江戸幕府時代より日本によって支配され、敗戦後は銃剣とブルドーザーによって米軍基地とされ、復帰後も米軍と追随する日本政府によって支配される構造は変わらない。それに対し体を張り、「差別」いう強い言葉で怒りをはっきり表す。辺野古に新基地を断固作らせないという県知事を選び、衆議院選挙では沖縄選挙区全区でオール沖縄の候補を勝利させ、新たな一歩を踏み出している。安次富浩さんは最後に、沖縄の人々は一つ一つたたかい取ってきた。広島で頑張っている皆さんがいることは知っているがもっと大きく広げてほしいと結ばれた。沖縄の人々の思いに私たちも応えたい。最後に沖縄県人会顧問の中村さんの三線で「沖縄を返せ」を歌い、沖縄と共にたたかう決意を新たにした。

安倍政権のこれまで通りの安保政策、沖縄に基地の大半を押し込め、米側に差し出しておけば自分に火の粉は降りかからないということはもう通用しない。沖縄の人々のたたかいに加え、日米同盟の強化により自衛隊が米軍と一体化することは日本全土の演習へと広がっている。そして市民も軍事強化が安心にはつながらないことも気づき始めている。この実行委員会は、今回で終わるのではなく、これをスタートにして続けていくことを確認した。次はこの実行委員会「広島から沖縄問題を考える会」と第九条の会ヒロシマ、広島県 9 条の会ネットワークとの共催で映画「標的の村」監督の三上智恵さんを広島に招き「憲法を獲得する沖縄のたたかい」という講演会を予定している。その後も 4 月 28 日、6 月 23 日と広島から沖縄を考えるつどいを計画するつもりだ。今回以上の人々が参加してくださるよう頑張っていきたい。

帝国の慰安婦――植民地支配と記憶の闘い
朝日新聞出版・2268円

著者
朴（パク） 裕河（ユハ）さん

対立乗り越える勇気ある提案

性奴隷か売春婦かという引き裂かれた理解では、日韓は国家も国民も対立し、見落としてしまう「朝鮮人慰安婦」の実像がある。「帝国」をキーワードに慰安婦問題を捉え直した。

「日本帝国主義によって一緒に移動させられたのは誰か。国内では食べていけなかった農村の二男、三男のような人々の郷愁を慰撫（いぶ）するのに貧しい女性たちは利用されたのではないか。彼女らを慰安所に連れていった業者も全く名乗り出ませんでした」

『和解のために――教科書・慰安婦・靖国・独島』（2006年）で大佛次郎論壇賞を受賞した韓国・世宗大学校教授が、慰安婦たちのさまざまに異なる声に耳を傾けながら、対立する左右の議論の問題点を考えた。

親に売られても親を心配するような、からゆきさんと呼ばれる心優しい日本人女性が慰安婦の前身になったこと。性的に搾取されながらも、死の恐怖にさらされる兵士を慰安し、彼らの最期を疑似家族として見守った一面。朝鮮人慰安婦を酷使したのは軍人ばかりでなく朝鮮人を含む業者でもあり、彼女たちは皇国臣民になることを要求され「愛国」させられたこと……。

早くに編まれた慰安婦の証言集を読み込み、朝鮮人慰安婦の複雑な構造を描く。政治問題化する前に、若かった元慰安婦が生の声で語っているからだ。

慰安婦問題はもちろん日本と韓国だけの問題ではない。だが植民地と戦地を同一視することで残るのは純粋培養された物語でしかない。「元慰安婦のおばあさんたちでさえ自分が見たことしか分からない。それが一番難しい問題だと思います」

一方、植民地支配に言及しなかった日韓基本条約への筆鋒（ひっぽう）は鋭い。日韓協定を揺るがすのは問題が複雑になりすぎるにしても必要なのは時代の限界を乗り越えることではないか、と。

戦後70年に向けて打開の糸口はあるのか。

「流れを変えなければいけない。外圧に押されてではなく、両国民が納得する過程が必要です。この二十余年、日本は何をし、どこに限界があったのか。メディアの役割に期待しています」

昨年刊行された韓国語版が民事・刑事で訴えられ、一時日本語版の出版が危ぶまれた。勇気ある提案に共感の輪が広がる。

文・岸俊光
写真・藤井達也

お知らせ

1月に一度、続けてま～す。ご参加下さ～い！

日本軍「慰安婦」問題解決ひろしま

毎月第1水曜日に街頭行動を行っています！
2月4日（水）12:00~13:00　本通電停前
3月4日（水）12:00~13:00　本通電停前
主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
連絡先：090-3632-1410(土井)

◆ドキュメンタリー映画＋α
「何を怖れる～フェミニズムを生きた女たち」
1月18日（日）14：00～17：00
広島市中央公民館大会議室　参加費無料
主催：被爆70周年ジェンダー・フォーラム in 広島実行委員会
問合せ先：082-211-0266（広島女性研究所）
協賛：NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN)

◆中学生のための「慰安婦」パネル展
期間：3月14日～23日
会場：広島市市民交流プラザ1Fロビー

◆日本軍「慰安婦」問題をどう考えるか
3月20日（金）18時～
広島市民交流プラザ5F研AB
講師：吉見 義明（歴史学者、中央大学教授、日本の戦争責任資料センター共同代表）
主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
連絡：090-3632-1410 (土井)

ピースとハイライト【歌詞】 作詞作曲：桑田佳祐

何気なく観たニュースで
お隣の人が怒ってた
今までどんなに対話（はな）しても
それぞれの主張は変わらない

教科書は現代史を
やる前に時間切れ
そこが一番知りたいのに
何でそうなっちゃうの？

希望の苗を植えていこうよ
地上に愛を育てようよ
未来に平和の花咲くまでは…憂鬱（Ｂｌｕｅ）
絵空事かな？お伽噺かな？
お互い幸せ願うことなど

歴史を照らしあわせて
助け合えたらいいじゃない
硬い拳を振り上げても
心開かない

都合のいい大義名分（かいしゃく）で
争いを仕掛けて
裸の王様が牛耳る世は…狂気（Ｉｎｓａｎｅ）
２０世紀で懲りたはずでしょう？
燻る火種が燃え上がるだけ

色んな事情があるけどさ
知ろうよお互いのイイところ！！

希望の苗を植えていこうよ
地上に愛を育てようよ
この素晴らしい地球（ふるさと）に生まれ
悲しい過去も愚かな行為も
人間（ひと）は何故に忘れてしまう？
愛することを躊躇（ためら）わないで

♪♪ **サザンオールスターズが年末に熱唱** ♪

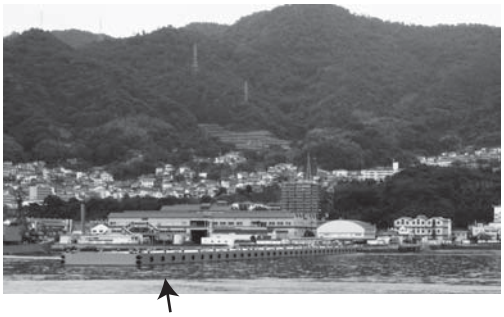
活動報告　（第九条の会ヒロシマほかネットワークなど関連団体行事含む）

日本軍「慰安婦」解決広島ネット水曜日街宣

９月14 日（日）　上関原発止めよう！広島ネットワーク世話人会　国際会議場 3F 研修室
16 日（月）　広島県９条の会ネットワーク例会
17 日（水）　上関原発止めよう！広島ネットワーク中電前行動　12~13 時　中電本社前
21 日（日）　教科書ネット講演会　伊賀さんと各地から　日本基督教団主城教会
23 日（火・祝）STOP! 川内原発再稼動 10.26 ヒロシマ集会実行委員会　国際会議場 3F 研
25 日（木）　核被害者ヒロシマナガサキフォーラム事務局会（JCJ）18：00 ～
26 日（金）　10.26STOP! 川内原発再稼動ヒロシマ集会発送作業　プラザ
27 日（土）　川内原発再稼動反対全国ネット討論会（薩摩川内）＆フィールドワーク
28 日（日）　川内原発再稼動反対鹿児島集会　天文館公園 7500 人（広島から 13 人参加）
10 月１日（水）　沖縄の現状で日本は幸せですか？　知花昌一講演会 in 三次（実行委）きんさい館
日本軍「慰安婦」広島ネット水曜日街宣　本通電停前　12 時 ~13 時
４日（土）　戦争させない 1000 人委員会　大江健三郎講演会　（元厚生年金会館）
５日（日）　九条の会・はつかいち「教育から憲法を考える」松田正久さん　廿日市交流プラザ
呉９条の会連絡センター　第９回音楽と講演　アーサー・ビナードさん
９日（木）　広島県９条の会ネットワーク例会
11 日（土）　伊方原発ゲート前集会　ピースリンク　ボートを持って参加
12 日（日）　子どもの本・九条の会広島５周年の集い　森村誠一、ビナードさん　中国新聞
15 日（水）　上関原発止めよう！広島ネットワーク中電前行動　12~13 時　中電本社前
17 日（金）　愛宕山控訴審第２回審理（広島高裁）、愛宕山を守る連絡協議会防衛局申し入れ
18 日（土）　ピースフェスタ三次（実行委員会主催）
25 日（土）　日本軍「慰安婦」バッシングを乗り越えて（慰安婦ネット、広島、呉 YWCA 共催）
26 日（日）　反「原子力に日」ストップ川内原発再稼動集会 13:30 ～　青少年センター　＆パレード
ひろしま医療人・九条の会　松本ヒロ公演／有沢有　14：00 ～　広島 YMCA 文化ホール
11 月１日（土）　10・26 集会＆パレード反省会
２日（日）　許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会相談会（名古屋）広島から２人参加
３日（月・祝）広島県９条の会ネットワーク憲法のつどい　津久井進講演　青少年センター＆デモ
５日（水）　日本軍「慰安婦」解決広島ネット水曜日街宣　本通電停前　12 時 ~13 時
６日（木）　広島県９条の会ネットワーク例会　平和ビル５F　18：00 ～
９日（日）　上関原発止めよう！広島ネットワーク例会　16：00 ～　国際会議場 3F 研
11 日（火）　日本軍「慰安婦」早期解決広島ネット例会
12 日（水）　在米被爆者裁判　13：30 ～　広島地裁 201 号　森中さん尋問
15 日（土）　「大久野島で体験したこと」（お話 : 岡田黎子）（会場、主催 : 呉ＹＷＣＡ，14:00）
女性９条の会ひろしま　貧困と憲法講演会　秋田弁護士＆石口弁護士　ゆいぽーと
16 日（日）　九条の会・三原　８周年記念河上暁弘講演会　＆デモ（1000 人委員会）
17 日（月）　第九条の会ヒロシマ世話人会　五日市ガスト　13：30 ～
広島から沖縄問題を考える実行委員会街宣（17:00 ～　本通電停青山前）
19 日（水）　上関原発止めよう！広島ネットワーク中電前行動　12~13 時　中電本社前
20 日（木）　広島から沖縄問題を考える実行委員会（18:00、広島 YMCA2 号館）
21 日（金）　８・６ヒロシマ平和へのつどい総括会議
24 日（月）　グローバリゼーションを問う広島ネットワーク　国際会議場 3F 研　14：00 ～
25 日（火）　核被害者広島・長崎フォーラム実行委員会＋発送作業　17：00 ～　国際会議場３F 研
25~26 日　衆議院議員選挙に公開質問状発送。広島島県内の選挙区、中国ブロック立候補予定者
27 日（木）　秘密法廃止街頭宣伝 17：00 ～　秘密法ネット世話人会 18：30 ～　JCJ
28 日（金）　広島から沖縄問題を考える街宣（17:00 ～　本通電停青山前）
第九条の会ヒロシマ若者へのメッセージ映像をナビアへ相談
12 月２日（土）　衆議院議員選挙に公開質問状回答集約（ホームページ 掲載）
３日（水）　日本軍「慰安婦」広島ネット水曜日街宣　本通電停前　12 時 ~13 時
４日（木）　広島から沖縄問題を考える街宣（17:30 ～　横川駅前）
５日（金）　普天間即自閉鎖、辺野古新基地建設反対ヒロシマ集会　西区民文化センター
６日（土）　秘密法廃止抗議集会（広島弁護士会主催）＆デモ（秘密法ネット主催）
８日（月）　不戦のつどい（平和運動センター＋原水禁）自治労会館
９日（火）　慰安婦ネット事務局会（広島国際会議場３F 研修室）
11 日（木）　ナビア映像立ち合い（ナレーションと BGM）
安倍政権にレッドカード街宣１　本通電停前 15：30 ～ 16：15
13 日（土）　安倍政権にレッドカード街宣２　本通り電停前　16：30 ～ 17：15
ナビア映像開始（本通電停角電光掲示板）　～ 2015 年１月 12 日
16 日（火）　広島県９条の会ネットワーク例会
20 日（土）　広島から沖縄問題を考える会例会　広島 YMCA2 号館４F　17：00 ～ 19：00
21 日（日）　上関原発止めよう！広島ネットワーク世話人会　15：00 ～国際会議場 3F 研
24 日（水）　上関原発止めよう！広島ネットワーク中電前行動　12~13 時　中電本社前
26 日（金）　第九条の会ヒロシマ世話人会⑭
21 日（日）　上関原発止めよう！広島ネットワーク世話人会　15：00 ～国際会議場 3F 研
2015 年
１月 ７日（水）　日本軍「慰安婦」広島ネット水曜日街宣　本通電停前　12 時 ~13 時
９日（金）　第九条の会ヒロシマ会報発送　プラザ３F　フリースペース 13：30 ～

伊方原発ゲート前集会　ボートを持って参加

ストップ川内原発再稼動藤田祐幸講演会


呉海上自衛隊のＦバースが 240m から 420m に延長
（台風のため、平和船団による抗議行動中止）

安倍政権にレッドカード街宣

お知らせ

◆2015 世界核被害者プレフォーラム講演会
「福島原発事故から４年～核による非人道的被害を問う～」
３月８日（日）13 時 30 分～ 16 時 30 分（開場 13 時）
世界平和祈念聖堂　　参加費 500 円
講演　小出裕章さん（京都大学原子炉実験所助教授）
連絡先：082-921-1263（森瀧）

◆教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま総会・講演会
3 月 22 日（日）13：30 ～ 16：30　広島市留学生会館
演　題：「なぜこの教科書が排除されたのか
～特定教科書排除問題から採択制度を考える」
講　師：寺川徹さん（出版労連副委員長）
参加費：1000 円
主　催：教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま
連絡先：0829-31-0876（柴田）

◆フクシマを生きる（仮）武藤類子さん（福島原発告訴団団長）講演会
3 月 22 日（日）14:00～16:00　予定
広島市市民交流プラザ・マルチスタジオ
共催：上関原発止めよう！広島ネットワーク / 福島原発告訴団中四国
連絡先：木原省治（082-922-4850）大月純子（090-7540-0332）

上関原発止めよう！広島ネットワーク中電本社前行動
1 月 20 日（水）11：55 ～ 13：00　中国電力本店前
2 月 18 日（水）11：55 ～ 13：00　中国電力本店前
3 月 18 日（水）11：55 ～ 13：00　中国電力本店前
第 2　or 第 3 水曜日　　連絡：090-6835-8391（渡田）

広島県西部

◆九条の会・はつかいち「成人の日行動」
いわさきちひろの絵を使ったリーフレットを新成人に配布
1 月 12 日（月・休）9 時－10 時　はつかいち文化ホールさくらぴあ
主　催：九条の会・はつかいち　　連絡先：090-3373－5083（新田）

◆岩国基地の拡張・強化に反対する広島県西部住民の会 9 周年のつどい
「新・日米ガイドライン　～どうなるの　私たちのくらし !! ～」
1 月 24 日（土）　14 時～ 16 時 40 分（総会は 13 時 30 分から）
廿日市市商工保健会館交流プラザ
講師：呉藤正彦弁護士（原子力空母の横須賀母港問題を考える会）
岩国報告：大川清さん（米兵の犯罪を許さない岩国市民の会代表）
資料代：800 円　（託児・手話通訳有り。要連絡）
主催：岩国基地の拡張・強化に反対する広島県西部住民の会
連絡先：0829-31-3356

◆九条の会・はつかいち　憲法学習会
2 月 8 日㈰　14 時～ 16 時　阿品市民センター 1 階
（廿日市市阿品台四丁目 1 番 41 号　ＪＲ阿品駅山側）
講師：難波健治さん（秘密法廃止！広島ネットワーク）
内容：「特定秘密保護法」の問題とこれから
参加費：800 円　　託児・手話通訳有り。要問い合わせ
主催：九条の会・はつかいち　連絡先：090-3373－5083（新田）

◆2.11「建国記念の日」を問う広島集会
2 月 11 日（水･休）14 時～ 16 時広島カトリック会館多目的ホール
広島市中区幟町 4-42 世界平和記念聖堂横)
講師：足立 修一さん (弁護士)　参加費：500 円（資料代ほか）
講演：『次世代へ、平和憲法を未来にたくすために』
共催 : 日本基督教団西中国教区広島西分区 (082-262-9171)
カトリック正義と平和広島協議会 (082-221-6017、神垣)
広島市キリスト教会連盟 (082-261-2005、広島東部教会)

◆紀元節復活反対！平和・民主主義・人権を守る 2・11 ヒロシマ集会」
2 月 11 日（水）10 時～ 12 時 自治労会館 3 階 大会議室
講　演：中北龍太郎弁護士
連絡先：082-503-5855（広島県原水禁）

広島県東部

◆成人おめでとう！　九条の会･成人式アピール行動（チラシ配布）
1 月 12 日（月）　9:00~10:30　三原市宮浦ポポロ（成人式会場）
主　催：九条の会・三原
連絡先：0848-62-5929（日本基督教団三原教会）

◆SLAPP 裁判に負けないぞ！
岡田和樹さんを支援する　チャリティーパーティー
1 月 18 日（日）17：00 ～ 20：00　福山市神辺町湯野　東福院
出演者：岡田和樹さん・あじあん・坂田光永・ドブ板溝六
・Sayuri＆エダヒロリョウジ・チームもこ・kozo・カプカプ
参加費：1000 円　子ども無料　うた・お話・飲食コーナー等有り
主　催：原発の一てもえ一じゃない BINGO
連絡先：080-1919-9497（奥野）084-924-4435（市民運動交流ｾﾝﾀｰ）

◆「中電による 4800 万円損害賠償裁判」公判傍聴・山口県庁抗議
1 月 27 日（火）14 時　尾道から大型バス運行　　山口地裁
参加費：バス代金 3000 円（尾道各所～三原～広島での乗合せ可）
主催：フクシマから考える一歩の会
共催：原発の一てもえ一じゃない BINGO、命と未来を考える会・三原
連絡先：090-2002-8667（小林）

◆第 10 回さよなら原発！歌声パレード in おのみち（集会とパレード）
3 月 8 日（日）13 時 30 分集会開会
14 時市内パレード　JR 尾道駅前芝生広場集合
共　催：" フクシマから考える一歩の会、原発の一てもえ一じゃない BINGO, 命と未来を考える会・三原 "
連 絡 先：090-2002-8667（小 林）090-9115-3317（坂 田）
0848-66-3592（坂本）

広島県北

◆一人芝居「ひとみ」公演会と日本軍「慰安婦」問題パネル展示
「ひとみ」朗読一人芝居 - 真実はひとみの中にある -
3 月 1 日（日）三次市十日市コミュニテイセンター
(1)13:00 ～パネル展
(2)14:00 ～日本軍「慰安婦」問題を描く「ひとみ」
作・構成・出演　横井量子〈かずこ〉さん
主催：日本軍「慰安婦」問題の解決を求める市民講座実行委員会
共催：県北九条の会・退職教職員九条の会・寺戸九条の会・平和を考える市民の会・新婦人の会　連絡先：090-6403-9183（佐々木）
(広島 2 月 27 日、福山 2 月 28 日公演予定　連絡は 090-3632-1410 土井)

事務局から

2014 年度会費をお忘れなく！　よろしくお願い致します (._.)

・2014 年はご支援、有難うございました。皆さまのご協力によって活動をすることができます。
2015 年も！　どうぞ応援をしてくださいね。

・会費納入についてはタックシールに記載しています。もし 2014 年の会費をお忘れになっていたら、よろしくお願い申し上げます。入れ違いの場合はどうぞお許しください。ご確認の上、記載の間違いがありましたら遠慮なくご連絡くださいますよう、よろしくお願い致します。

後記

・年末、年始、いかがでしたか？　元気に新しい年をお迎えになったことでしょう。大雪や寒さでお困りの皆さん　お見舞い申し上げます。

・菅原文太さん、亡くなられて残念ですが、私たちに大きな勇気を与えてくださいましたね。サザンの桑田さんは作詞作曲の歌を 2014 年の最後に熱唱。多くの人が動き出す原動力になるといい。（**P18** ご覧あれ）

・本通りナビア映像に第九条の会ヒロシマとして初挑戦。反省点は多々あるけれど見て考えてほしい。見られた方はご感想をお寄せくださいネ

・第九条の会ヒロシマも 23 年。明文改憲への土俵は整えられたがこれからが大事。8.6 意見広告を見た人から半年たつ今も連絡が来る。希望だ…